# 鳳闕見聞録

乾

ワ 3
762
1

門 呂 762 號 巻 上 1

清涼殿

絹襖圖

絹張有繪

明治三六年九月二六日購求

墨画

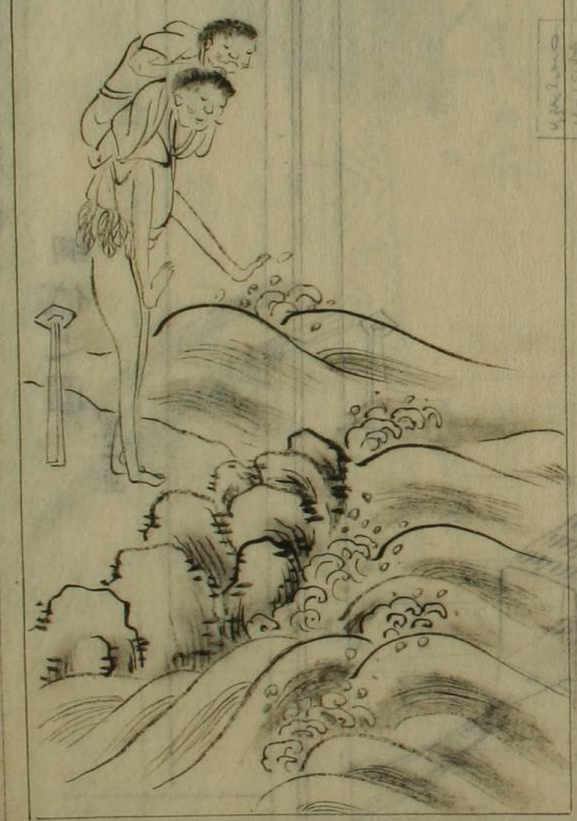
荒海御障子

金物赤銅

四隅肱金

左右鉦九宛但上下無

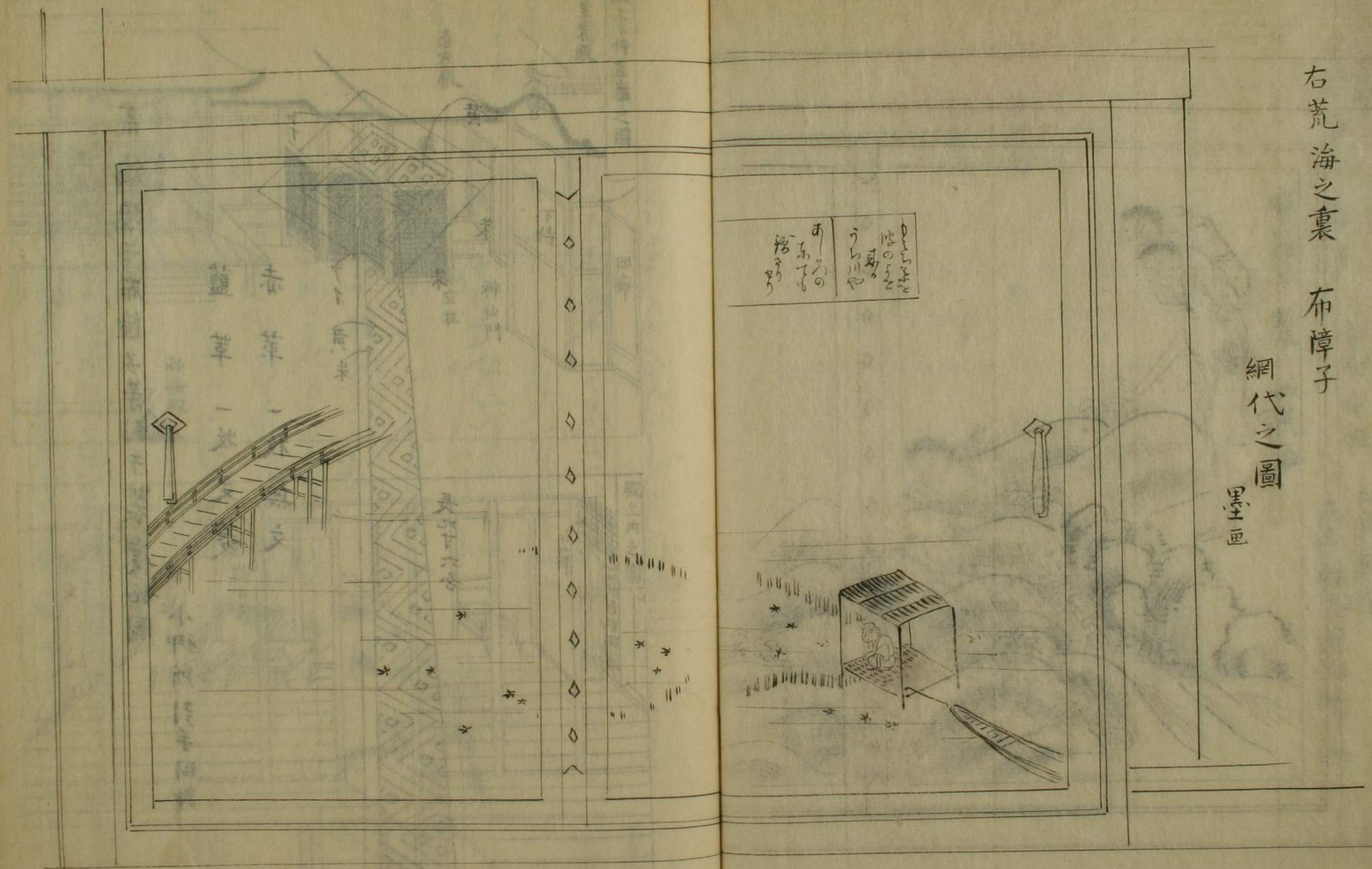
布障子製如荒海



右荒海之裏　布障子

網代之圖

墨画

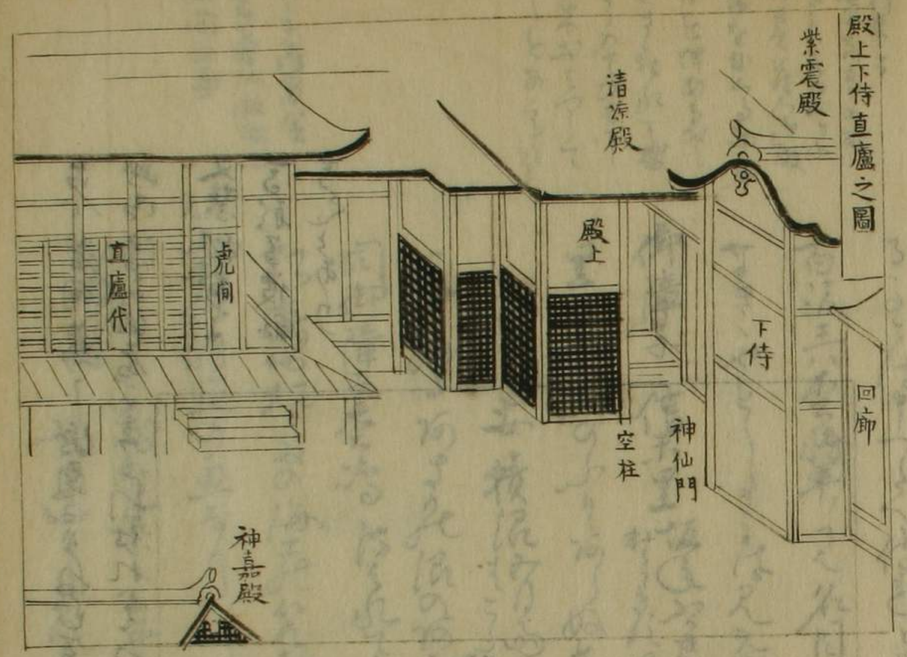


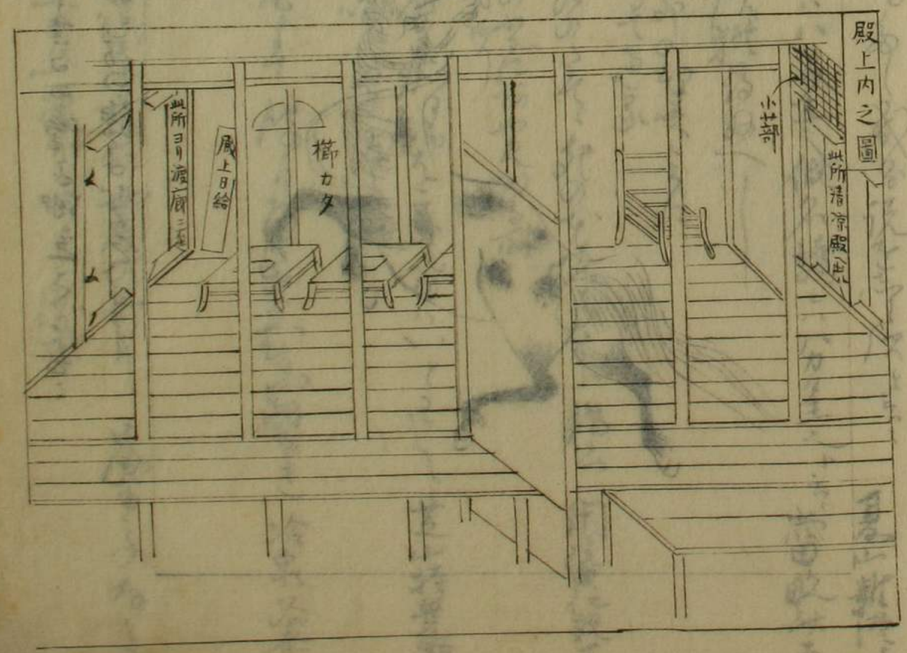
荒海障子布障子等引手製度如圖

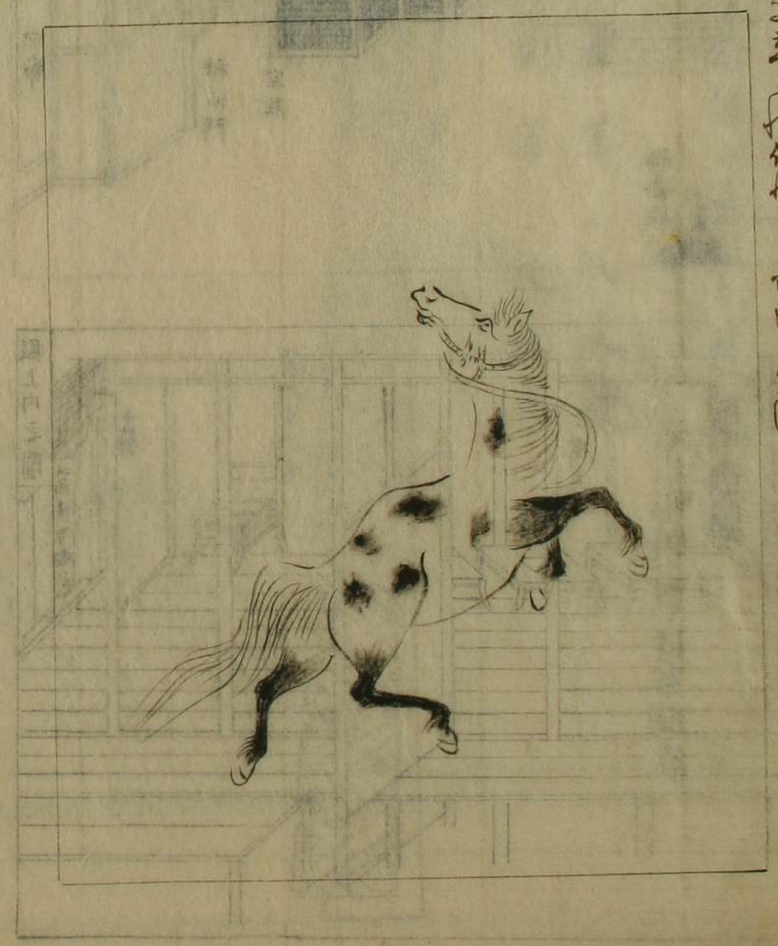
小御所引手同斷

藍革一枚 文菱

赤革一枚 無文





古今著聞集ニ渡邊ノ綱ノ鬼ヲ切リ給フ事ヲ云ヒ
此時源ノ渡邊ノ綱ハ鬼ノ腕ヲ切リ給ヒシ時ノ源ノ
又禁秘抄ニ
百鬼夜行ノ図
云々

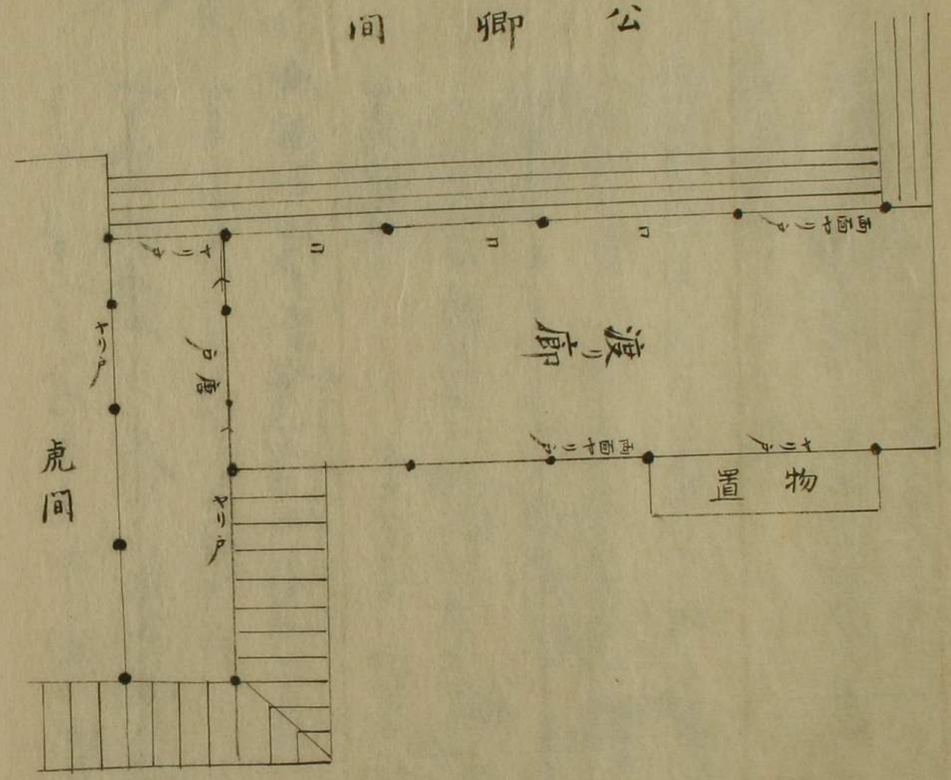
日中行事ニ
卯ノ時ニ
あしきものの
ふせぎとして
ねずみ
ねずみの
ものを
二のかを
ひきあらため
ものさしたる
のかをつ
さしたる
ものを
ものをあらため

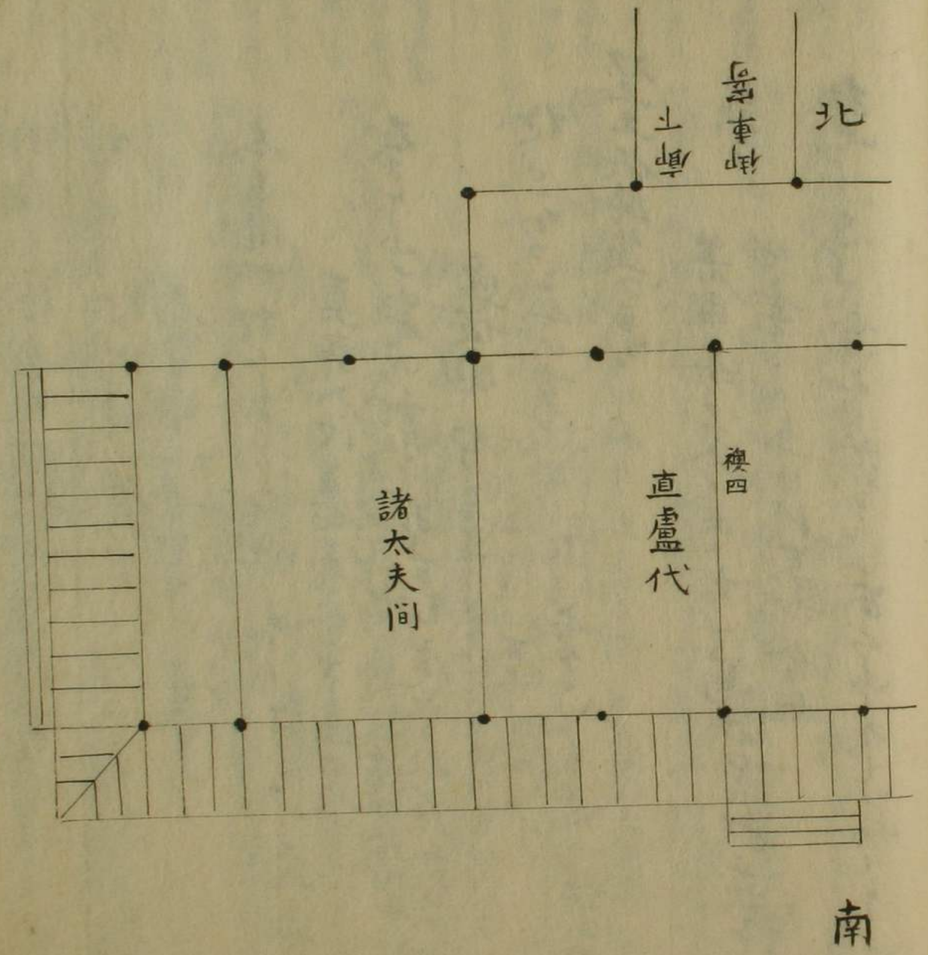
捨蔕ニ
西方毒仏
武五間四面

百沢王六雪將軍ノ二人ハ名聞ハ多生ニ似名讀ニハ分生ニ
なきやうにきこゆ
御障子 信夫里坂
里の名のきこゆ
安積沼
同御障子書
杉萬地
八上王仏將監の画
海壺

夏山龍
當時
月清
芝山持豊御
冷泉為秋
藤なくしのなこり
思ひいりしかの

東間
南
西
北
次夫間
玄関
廊下
階段


公卿間
後廊
虎間
ヤリト
置物


北
御車寄
御下
直盧代
諸太夫間
南

北
南
上
下
西
東
長岡
西田
高盛
嘉木夫岡

御障子　信楽山　外山の霞星ゆてしらるなり

むら雨の外山の霞ハ星とけてみえてあるしかつさの春　閑院亜相公

志賀浦　一木の松あり　しなみきて　さゝ波もあり

志賀の浦や松をあらし吹わたりさゝ波遠く浪ふ海　烏丸光祖卿

真野入江　尾花のなみよさゝ波の　よるもなかりに夕暮の月

夕されは尾花の雲も尾花か末に霞の入江のみ　芝山持豊卿

逢坂関　いさゝか雪ふりしみに松の　貫関雪も近江を見ゆ

行きかへる年の夏をも雪も雪にとゝめし逢坂の関　冷泉為泰卿

右土佐将監の画なり

宝暦四貞正秋萩の戸の　斎に　九重のうちにみゆ萩の戸　萩の花咲秋ハ

萩戸

若菜参るに鳥萩の花見萩を詠むところ　御書あり年中行事

絵ふたつ葉名付萩の花のあかる夜もしらすして　頓阿

禁秘抄ニ云　萩戸ハ常御所ニて

同書ニ云

中殿東庭竹基　二ツ同萩戸不限萩也　今秋萩等御栽之云々

今按ニ清涼殿の西面の御庭萩の所ヲ御局とて萩の戸といふなり

又同書ニ萩戸ハ清涼殿　東庭ハ同西庭萩　朝餉ニ台盤所前ニ　萩壺と延元年　右衛門ハ萩東　延長我萩東庭　以仁寺殿東庭云々

今清涼殿の東庭ハ竹ノ　本夫有西庭ハ萩ノてうし

又麦山雑談ニ萩戸ハ常ノ御所ニ萩ヲ御植ナス也秋草ヲ植

御心ニ入り給　宗隆卿清涼殿の内の御名なり　御記ニ秋草御植

いまもさかりに萩あり　又京のことハりありや如何ぬへし

御障子　清瀧川　河ハ浪ときく　八代の数ある所

萩の下に清瀧川の波風にさえぬ浪や秋なるらん

伏見里　稲ふき雲おきてし　続も見ゆ

かれる田むらに伏見の里遠てむらさめる田鶴も雲の空けき

広沢池　こゝろよるけの　さもあらハ広沢の月

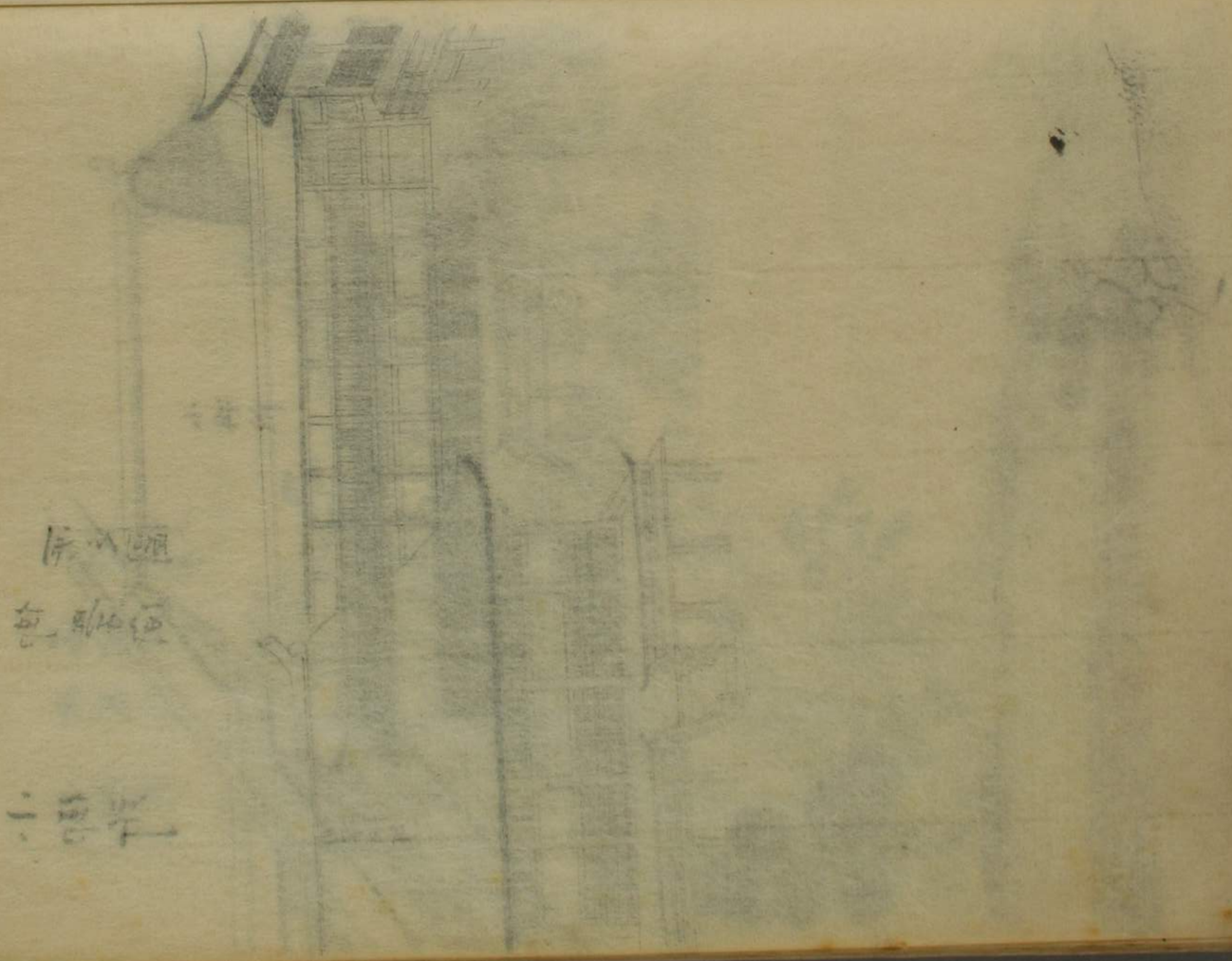
小夜風の芦辺にたてて広沢の月をみ池のさゝなみ

神山　こよひ神山かけて　本院も見まし

神山の木深く住む雲乃うちにとてる鳥の色ハ雨の空

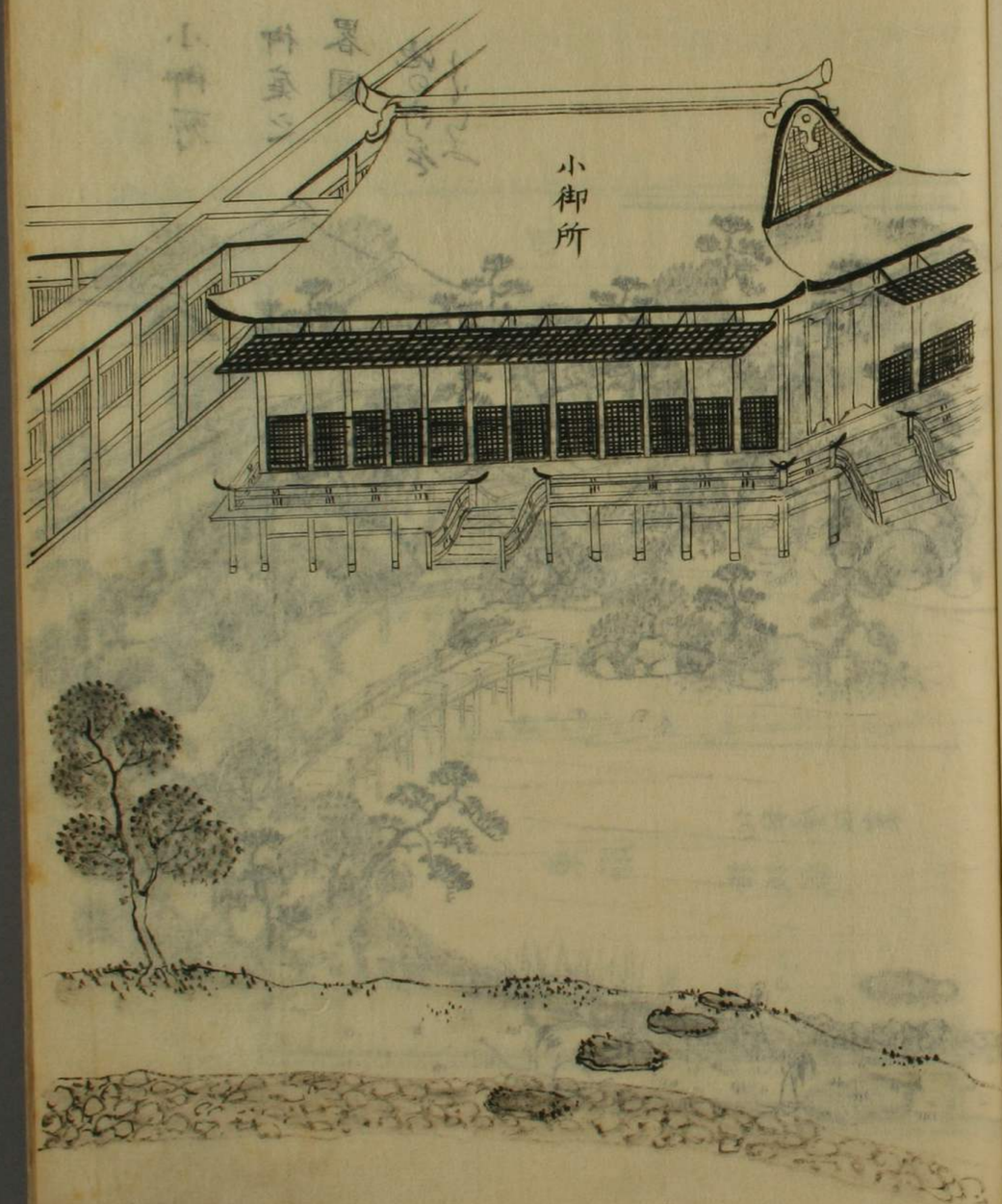
以上御詠哥色紙形ハ土佐土佐守の筆なり

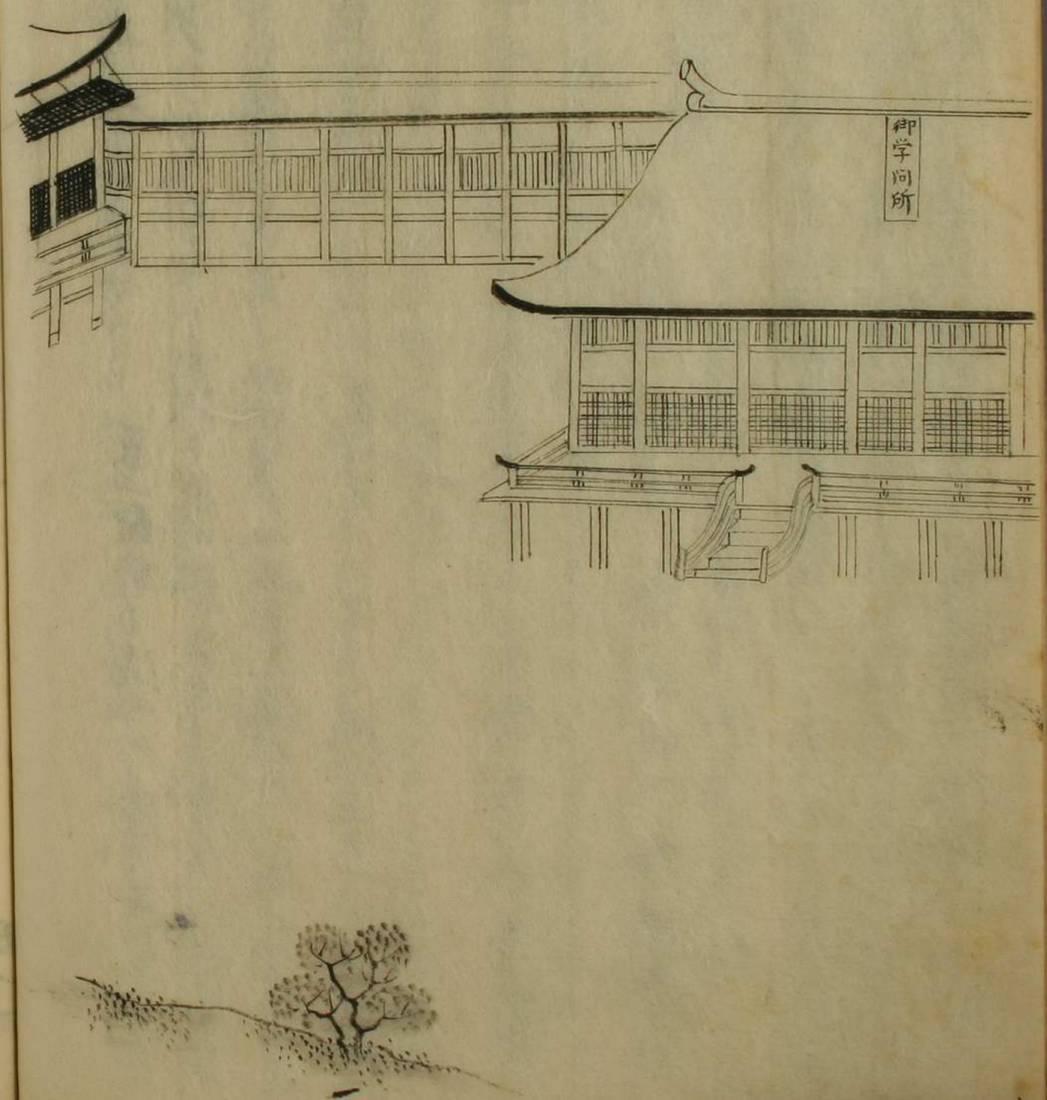
御手水間　清涼殿の内にあり
墨画なり
布障子　三幅あり　弁慶こきよたとも又傍に
内しよれも濃めり舟も大井の河の飾りあてやふなと
石灰壇
清涼殿南東の角にあり　夏山雑談に云　毎朝御拝御遥
拝ナド行ハセ玉フ所也　御座敷ノ中ニ石灰ニテ壇ヲ築砌ナリ　むかふて御浄あり
後醍醐院日中行事に云　石灰の壇にまれ
むかひて両段再拝その外御拝ましますへし
禁秘抄に
石灰壇四季御屏風
二人宰相南面坐
御屏風下松東柳西北
御屏風内立陰陽師
ナキアルヨシナリト云
庭文燈ニ掛障子皆屋
從前如之云々
混明池障子
清涼殿の孫庇に立らる　著聞集に云　又清涼殿の弘庇
にたいたる障子にて混明池を書きもまりそれ
裏は嵯峨の野にて小鷹狩あり　又迫居(?)同前つりひをなられそは
親王子侍従池外将セしに少将の心にそ深の少将といふ大井川の邊
に住みける雲の少将のなりやかの大井川の家をめて修の子特し
なる残こつし所る三柱ととこ　夏山雑談に云　混明池ノ障子ハ名目コンメイチと
コンメイナトト云ハワロシトゾ云く　或人日　混明池の混の字さんずいなし　昆の字本
と云り　紀通でも即見し　此御障子の上西元徳四年作混明池在長安
西関四十里云と　あまそて昆の字そへハなし　混の字なりし　混明池ハ
南面唐国人北面なり　上は色紙有
嵯峨の野や花の色種の色香に心をとめし秋のかり人　前大納言定家
画は西面ともに土佐土佐守の筆なり
荒海障子
清涼殿弘庇北乃方にし南面の御襖なり　北にて御簾をかけ
らせたまへは見えける長押に云　小のへにて有る清らし
荒海の障子と云是なり　禁秘抄に清涼殿の子寅にたてられたりこれを北に荒
海の障子あり　南に手長足長北面の障子ハ宇治の網代墨絵之二間にて上乃
御局との間は昆明池の障子は立下出　著聞集に云　又荒波の尼のまへなる



小御所

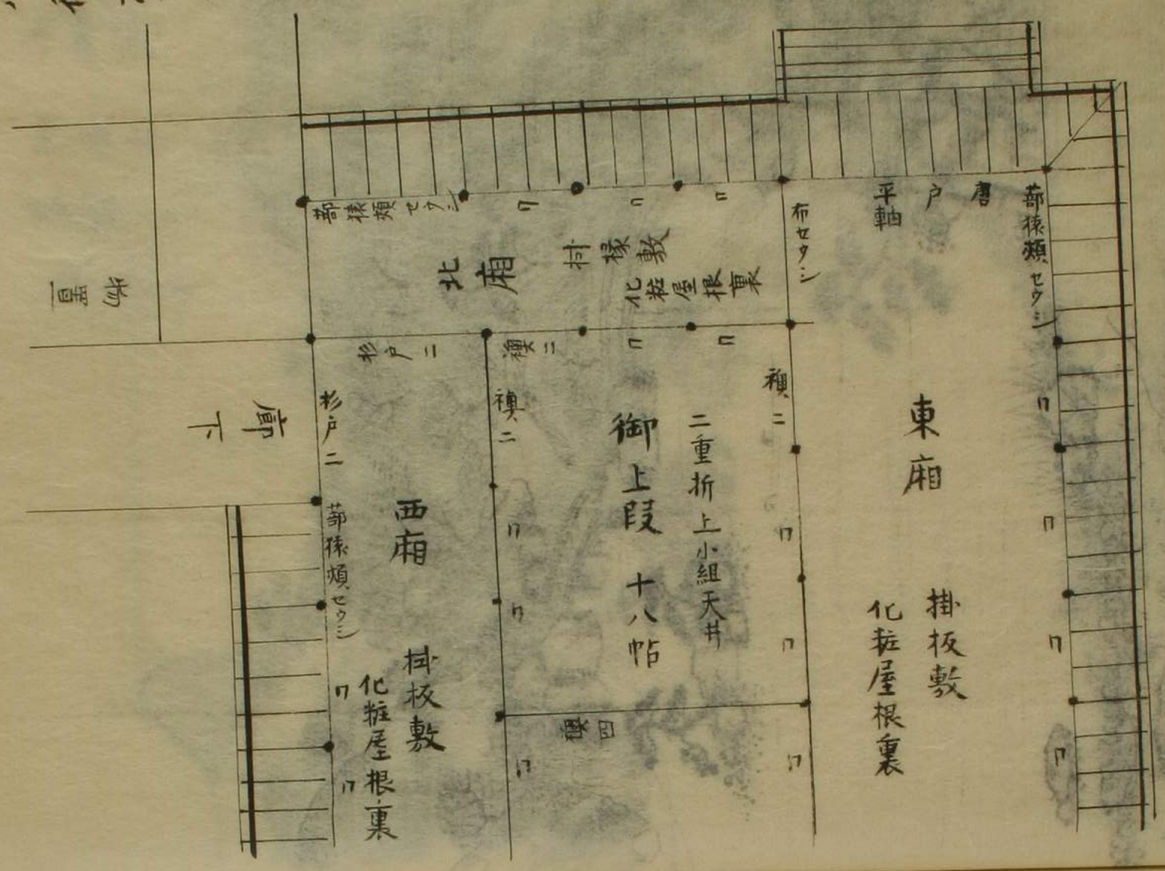
御學問所之圖

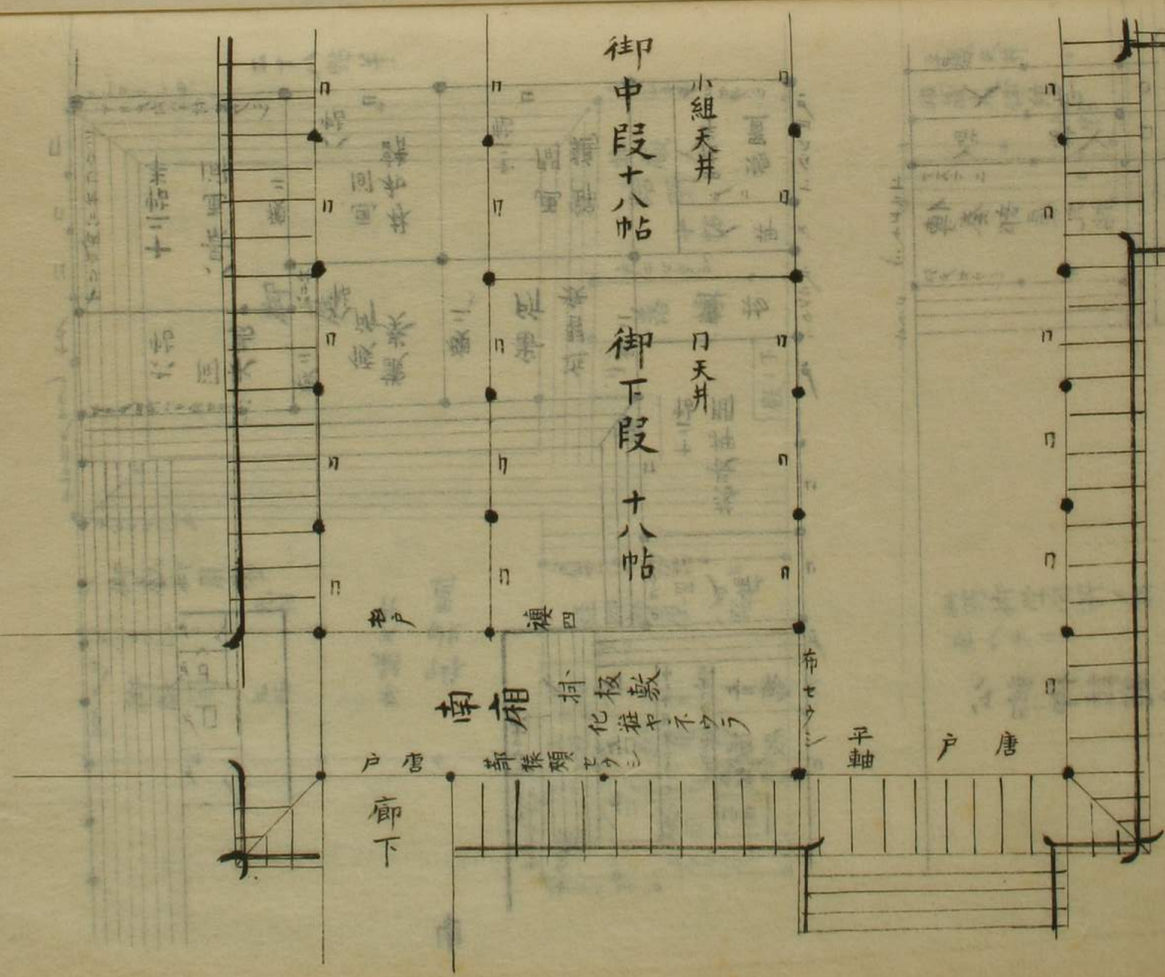


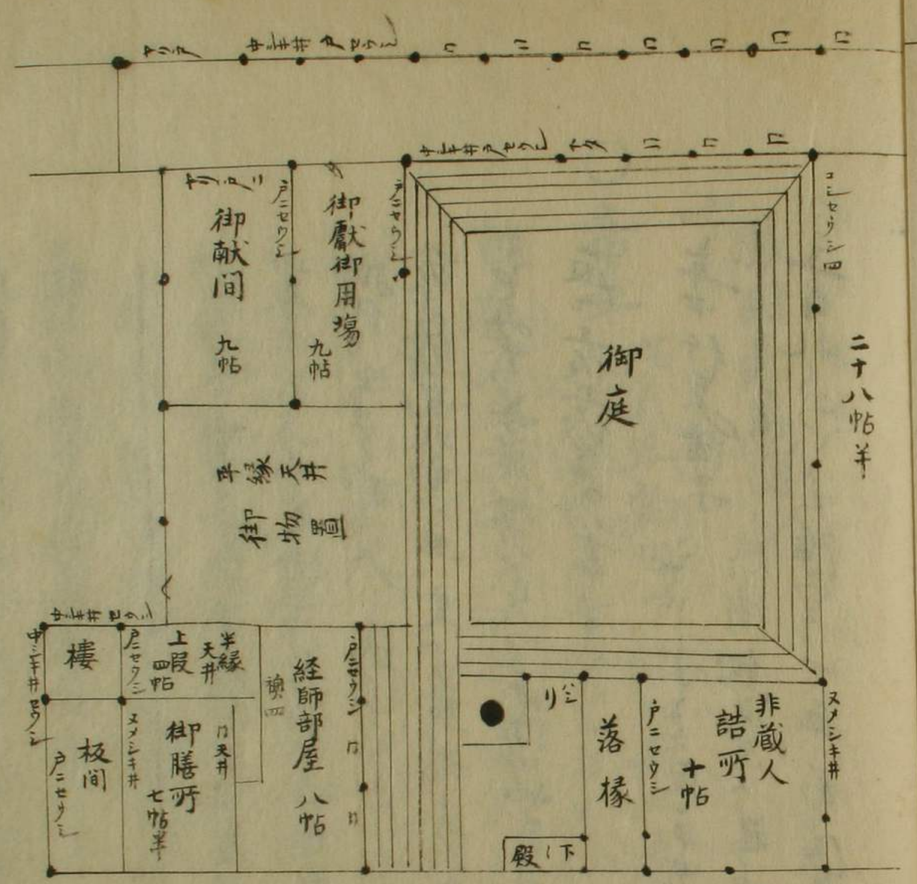



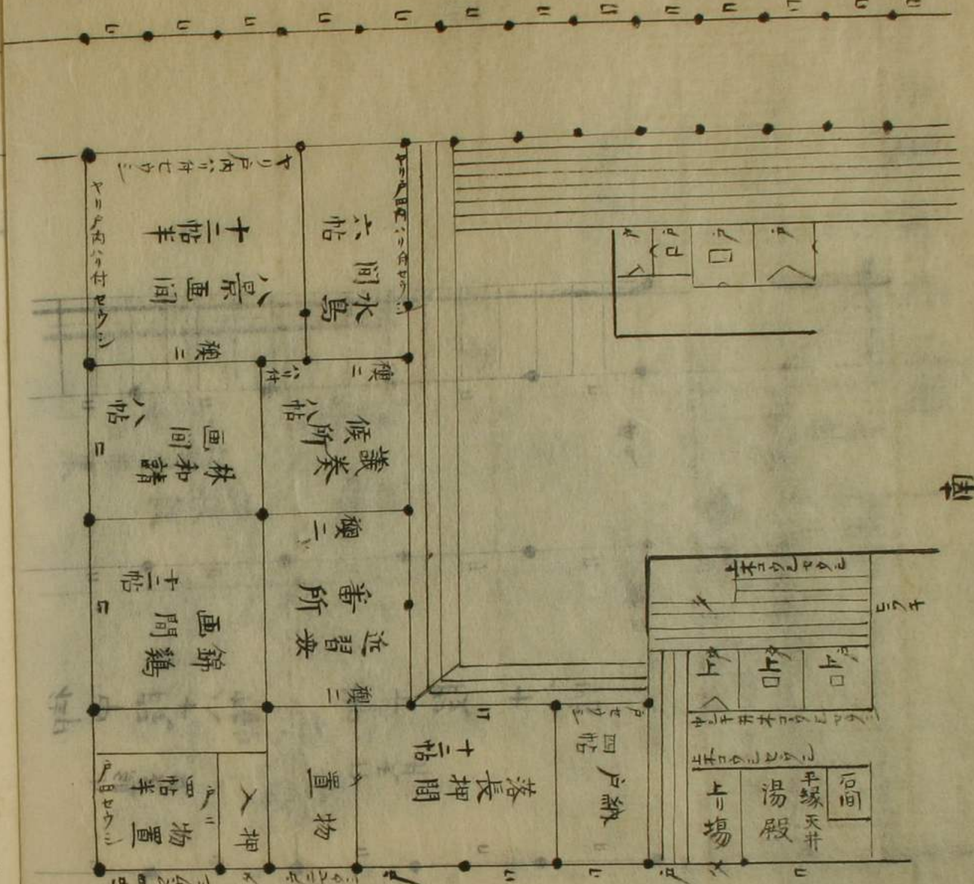
小御所
御庭之
畧圖
池の御所
ゑいゝ

小御所内ノ図

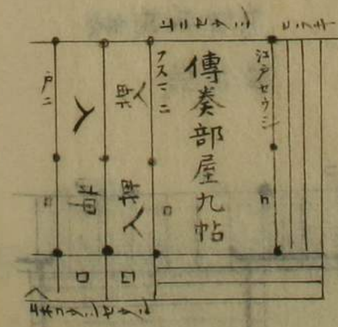

東廂
掛板敷
化粧屋根裏
唐戸
平軸
節孫類セウジ
布セウジ
御上段十八帖
二重折上小組天井
襖二
襖四
北廂
掛縁敷
化粧屋根裏
西廂
掛板敷
化粧屋根裏
杉戸二
御所


御中段十八帖
小組天井
御下段十八帖
口天井
襖四
南廂
掛板敷
化粧ヤネウラ
唐戸
平軸
布セウジ
節孫類セウジ
雪戸
廊下



此所御学問所ノ西ニ
並ヘタリ




公卿御詰廻り

布障子と荒海の障子とも名付て手長足長なと書り其裏は宇治のあしろ
改めたる清少納言か枕草子に此障子の事とも見へたり一条院このりに出る
まるとかや 宗俊思ひを春日抄り葉秘抄を引て此荒海の障
子の南面 手長足長此面の障子宇治の網代あると云は 年葉中の秘要抄
荒海ことに荒海の障子と名付て手長足長とあるり其裏は宇治の網
網代とありあり又名付り加之北面荒海の障 有南面の画也
荒海の画北面の画は宇治の網代といふなるへし宇治あしろ名残
と見ゆ菓成等乃よそをる宇治川やあしろの東を描きけり 光信々
画は土佐光信の筆なり
年中行事障子 これしまうの画年中行事被書之清涼殿歌
と有 然も見え不思ふ清涼殿の南廊の字野合へ
立られしいはゆる障子にて画はあらす年中の行事を書せられたる也

# 鳳闕見聞圖説

○帝王 洪武正韻曰丁計切帝王君也 謚法曰徳象天地称帝ト
云々 漢制天子称皇帝其嫡嗣称皇太子ト云々 白虎通
曰皇者天之総美大之称也煌煌人莫違也不煩一夫不擾
一士ヲ云 故為皇云々 又云夏禹受禅為君故称后殷周煩人心
征伐天下ヲ故称人ト云々
日本ニ而は天皇ト申奉る是則天神七代地神五代より受伝へ給ひて
神統万々疑なく天照太神の御末なれは之夫木集ニ
我国は天照る神の末なれは日の本としもいふにそ有ける
又後水尾院の御製ニ
あめしるや他の国までも秋津国の神の代々はあまつ日つきハ

皇后　周礼云天子后立六宮鄭氏注云前一宮後五宮也五者后一宮三夫人一宮九嬪一宮二十七世婦一宮八十一御妻一宮后正位宮闈體同天座云々

上皇　天子退位則称上皇　古文曰天寶十四年安祿山陷洛陽明年陷長安天子幸蜀唐明皇太子即位於靈武明年皇帝移軍鳳翔其年復西京上皇還京師天子退位云々則称上皇

都　称名曰國君ノ居処ノ都云帝王也記曰大昊陣都云是都称名始也三代ヨリ而来夏也殷也周也京師ト云京ハト云大也師ハ衆也大衆ノ居所也云

洛陽　尚書洛誥篇生々ノ孔安國ノ注澗水ノ間ニシテ南ハ洛水ニ近シト云々亦雒云山南水北ヲ陽ト云洛ハ洛水ノ北ニ有故洛陽ト名付ト云々

大内裏　拾芥抄京程ノ圖ニ云南北十町一条ヨリ上テ二条ニ至ル東西八町東大宮ヨリ西大宮ニ至ルト云々

禁中　三輔黄圖曰漢宮中謂之禁中門各有禁非侍衛通籍之臣不敢妄入ト云々禁裏　禁庭　皆此の意なり

九重　六家文選三十三曰若之門以九重ノ　九重乃都ト云　鳳闕

九八陽終リ数ノ陽ニ象ル故九重ニ号ス天子ヲ守護奉ル也

拾芥抄内侍所在温明殿載令者月断上殿掃部女官同侍之

南面

大極殿　人温明殿ニ云内侍所是也神鏡ヲ安置シ奉ル所ナリ

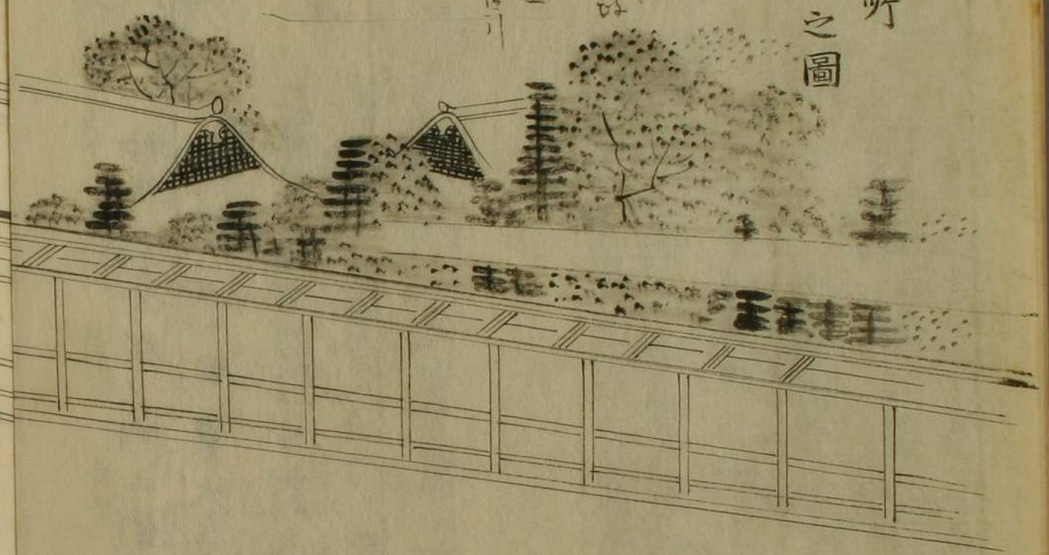
神代卷ニ云天照大神乃賜天津彦彦火瓊々杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡草薙劍三種寶物云々禁秘抄云天徳焼亡尾縣南櫻小野宮九大臣請神也云々　白河院御宇御日内侍所神鏡昔飛出欲上天而女官縣房衣袖奉引留

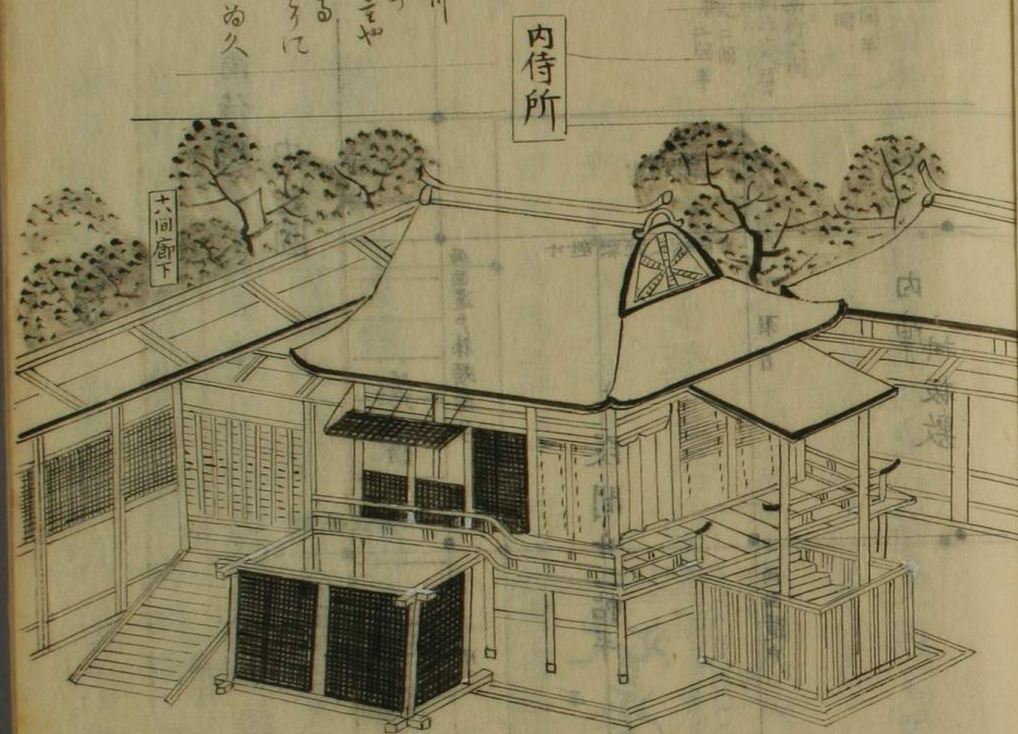
何海抄云宗神天皇内侍所同殿号九ヤ九ヤ温明殿ト云七夕ニ内ノ侍ヲ以テ宗ヤ九ヤ九ヤ殿ヲ清ム云々いはしうらこの殿ハむもこみ神ヲきこしめすこの殿ヲ以テ号ス

# 内侍所之圖

後鳥羽院

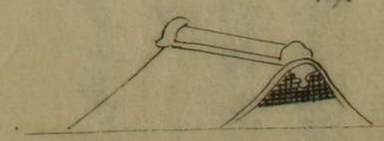
内侍所の御座の吉凶をうらなひ給ふ事ありしに
内侍の名をあらはし
内侍の名をあらはし
江次第御神楽の事曰主上
昼御殿御祈西廂に詣給ふ
御湯を三度下る



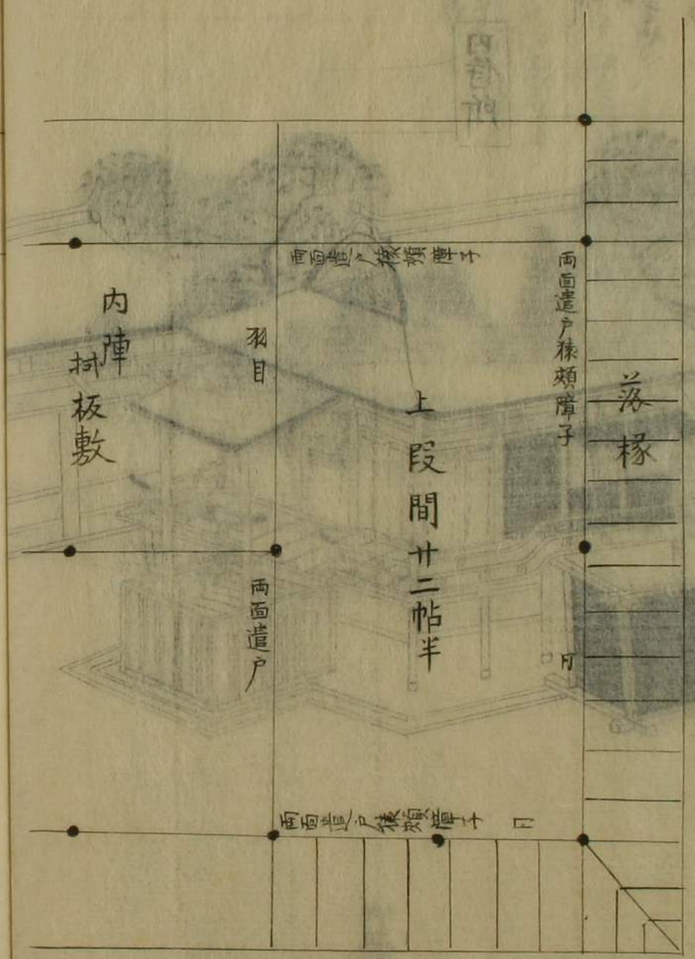



宮内卿大宮の和歌
いはうとの歌の
及いん九条や
長歌をもまる
なりやうに
氏部に出久

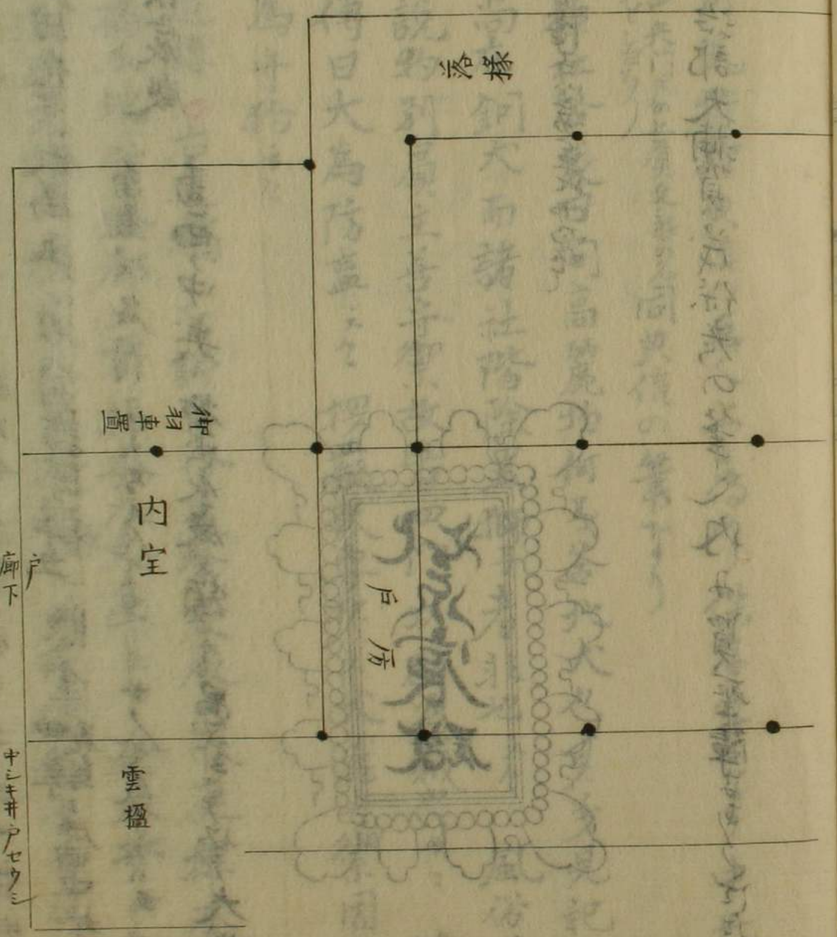
御鳳輦蔵



内侍所
内之圖




内侍所東取合 二間半 三間
清井戸通縁取合 梁行六間 桁行六尺四寸
東指出一間半清湯殿 二間半



依北因縁女官奉守護トスル　又賢所ニス　猫拾ス拾ミ変ジ

上段ニ　十二帖半　十二帖惣金　東方朔　西王母　狩野蔵之進画十帖惣金　鶴

座田九京大属画　刀自諸所　十五帖　惣金　四季花鳥　座田中務少録画

名目シルシテ　南面

紫宸殿　南殿ニス名目ヲ　おてんとうと　なんてんとうはあーしとなり

南面中央ニ紫宸殿ト　額ヲ　愚筆ヲ以テ大様ヲ記ス

拾遺ニ紫宸殿俗ニ
南殿九間四面庇
天暦御記ニ紫宸殿
春川勝宅所ニ

著聞集ニ南殿の賢所障子ハ宮中にて御覧ぜらるる由ニ見ヘタリ

障子ハ梅宮叢記　岡本治部大輔賀茂保考の筆ニ内ハ賢聖障子ハ江戸法ヲ見ヘタリ

賢聖障子ハ栄川院画
北条氏吉内記ヲ
ヨシ作内裏光ニ
保考紫宸殿ニ
門額

栄川院特野典信○画ク上ル侍ヒ保考乃書ナリ　中央門ハ物

犬中央門ヲ上員文表の名同典信の筆ナリ

神社啓蒙曰向高麗狗何ぞ答北犬也更ぞ見記王室今

尚在銅犬而諸社階除置獅子者非也ナリ　風俗通曰俗

説物別廣主善守禦故者四門以辟盗賊也ナリ　續高僧

傳曰大為防盗ナリ　櫻嚴獄要抄ニス犬花守禦固是名物

為守物ナリ

百錬抄ニ寛喜元年
二月廿七日仁和寺櫻木
一林同院南殿前
左中将資頼朝臣御
本樹被切ル云

○左近櫻　○右近橘　江談曰内裏紫宸殿ノ南庭櫻木者旧跡

伴橘木地昔倭都以前掘木大夫宅ナリ　拾遺抄云庭前之

櫻樹本是梅也　植武天皇遷都之日所破植也而及承和年

中拾遺抄仍仁明天皇被改樹仁明ヨリ櫻ヲ植玉フトナリ

年中行事ニ侍従ニ南殿櫻
植ル仁明天皇ト燒ケ焦
ル即櫻ヲ植玉フ

年中行事歌合ニ寄南殿櫻恋

南部十八藩

紫宸殿
東
西
九級
九級
六尺ノ
六尺ノ
唐戸
唐戸
唐戸
唐戸
唐戸
唐戸
唐戸
唐戸
馬周 房玄齡
杜如晦 魏徵
諸葛亮 蔡瑗
張良 第五輪
管夷吾 鄧禹
公孫僑 蕭何
伊尹 傅說
太公望 仲山甫
獅子 狗犬
叔孫通 賈誼
文翁 董仲舒
倪寛 蘓武
鄭玄 桓栄
班固 陳寔
楊雄 羊祜
張華 杜預
虞世南 李勃
西廂
九級
九級
南階
十八級

志るしとてなき梅さへ見ゆる此桜も花のみぬなかきの色増るや　内大臣

同哥合　寄南殿橘恋　文化十三年源氏六々南殿の橘を見て　九重の内階の前の花橘そのよ

くれなゐの見えしも昔の面影に花橘の香さへなつかし　新中納言

東西　清涼殿　南殿の北西にあり　南殿北西の庭は清涼殿の東階なり　南

殿の小橋乃階より清涼殿にいたる　夜御殿　藤壺　弘徽殿

清涼殿の内にあり御間の名

○萩戸　○鬼間　○台盤間　○朝餉間　何れも清涼殿の内にあり御間の名

なり猶禁秘抄に委しく見えたれは爰にもらしぬ

二間　春日野

春日野も雪のきえまのはるかに今日の鶯　冷泉為村

初瀬里

初瀬女の春の袂のうつり香に梅咲くなり

志賀山

清涼殿西庇　年中行事障子

清涼殿梁行七間四面　南北五間西面　御座七間　四面中殿　清涼殿又云御殿　西廂ノ殿居に

海人藻芥云清涼殿　孫庇中ニ御帳アリ　又板敷ナリ　御湯殿ノ上ニアリ

兼中抄云中殿清涼殿ナリ　御殿トモ云主上常ノ御座ナリ

花乃色春をまち見る家桜　鳥丸光栄

右繪土佐光信筆なり

夜御殿　東南開西面清白張二之間三之間

大和画土佐光信乃筆なり

春曙抄云藤壺の上御局弘徽殿の上御局なと有中宮

○弘徽殿　のうへの御局弘徽殿の御座の側の一間を上御

局と申す宗より又にて夏山雑談云弘徽殿の御局にさらに

とこあるよし　海老の御座所　御方御所

○御障子　亀尾山

小松引袖もの心にせわしけて霞もみとりの色の　冷泉為村

桂川

岸の青柳さやかに見えて月まつ　関白道家

里人えて花の桂川柳かみふれの霧　冷泉為泰

禁秘抄云夜御殿　四方に有妻戸　南ハ大　書籍間也帳同清涼殿

年中行事御障子　立置き物也

東西ハ中ノ広　御殿ノ障子　[illegible]

故殿翻訳

夜のおとこの　[illegible]

御まへのならひ　[illegible]

のこころに　[illegible]

常盤杜　常盤木の緑も一つ何か春の花
ときはこ常盤ありけり
いつまでも千代とうらん春なきに常盤の杜の梢かな　有栖川中務卿織仁親王

後醍醐院日中行事ニ
朝きよめハ御殿司の
御下朝餉の渡りの
まりの官人衣冠し
てあれを其引ずて
八司のこと口頭して
あるかを云

右は土佐光佐せるの画なり

朝餉間　禁秘抄ニ云清涼殿の南ニ有とらニ或云号ニ云朝のあさがれひ
朝夷の心なりとらニ又省ニらるすハなさき表向の御膳ニ放
餘もんあるなりと云説あり其高坏ニ　政事録ニ云三ヶ日十五日毎
月朔日節句凡年中二十ヶ度ト云々

御障子　表遠景小野　萩の多く咲て鹿の有る也
但ししも有申
住の江のあつまやをさして萩咲遠景小野ニ探幽の筆　閑院宮典仁親王
須戸浦　月ある浦ニ海辺ニ居の事あり
雲の多く家所所
夜の山織やあるよ月をれてかりくるなきに須磨の浦風　日野前大納言資枝
布引瀧　広くゆきわ景の深きとる
中より出づる

後醍醐院日中行事ニ
朝餉の御膳まゐる時
選女居御まいを摘て
台盤所ニまいり御膳
をまゐり通白地も台
盤所のよりも公卿いまゐ
ぬなり

かえて見ゆるもの紅葉の中に赤きで秋ハ色ある夜ゝの膳　閑院典仁親王

台盤所　禁秘抄ニ云　台盤所三間北間朝餉之方敷黄端畳東
傍子其南女房局一張韓櫃朱漆也ト云　春曙抄ニ女房
達の侍所を禁中のさまの侍所と云又女房の侍とハ台盤所と云ど
源氏の花宴奈情まりくたり内にり

同書ニ云上の札のことも
殿上ニて台盤所ニ
あらぬのかとに日給な
さきこれ名を通して申へ
るとて云

台盤所日給

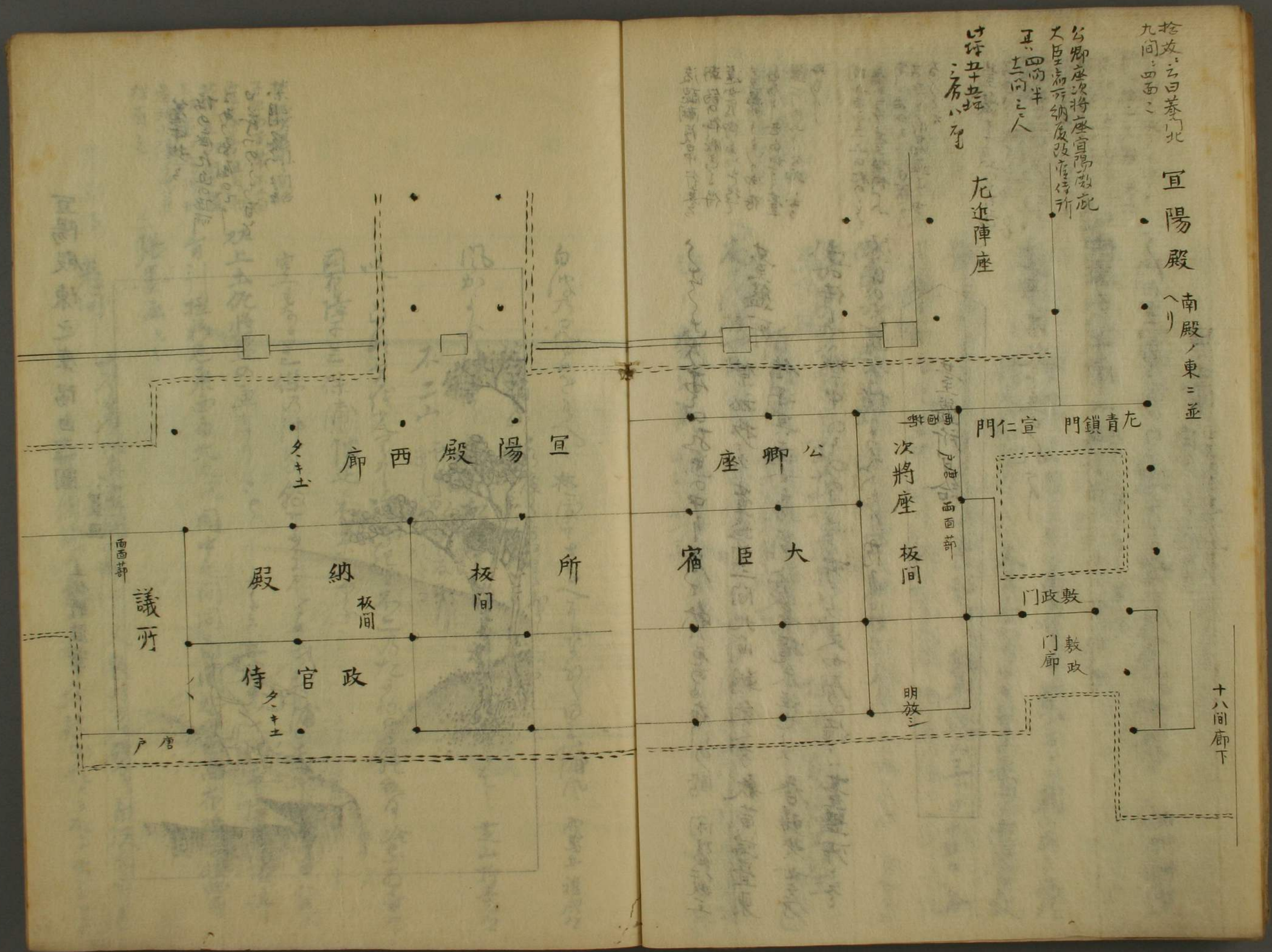
台盤をとて出の其前
名通きくいそくあふなむ
殿人所ニ出て立て書る
此傍子のおみいすとて
挿の間ニおく名給の寸事
あり袋ニ入れる箱と
入りてもとのまゝにて
挿の側にくる儀ハある
みぞのかこ挿くと云く

と書る本札を立られたり

御障子　宇津山　本ノ此御ニ書きまひめ葉の楓も有
夜の辺ニ書るもそし書家

宇津の山紅葉る縁の以り楓さとを嫁戸川つなのかみち　有栖川織仁親王

田子浦　漁師とよする風あり
田子のさま見へける


宜陽殿
南殿ノ東ニ並ヘリ
左近陣座
左青鎖門
宣仁門
公卿座
次將座
板間
西面部
大臣宿
敷政門
敷政門廊
明放シ
十八間廊下
宜陽殿西廊
タキ土
納殿
板間
所
議所
西面部
官政
侍
タキ土
唐戸

宣陽殿陳之座陽由之圖

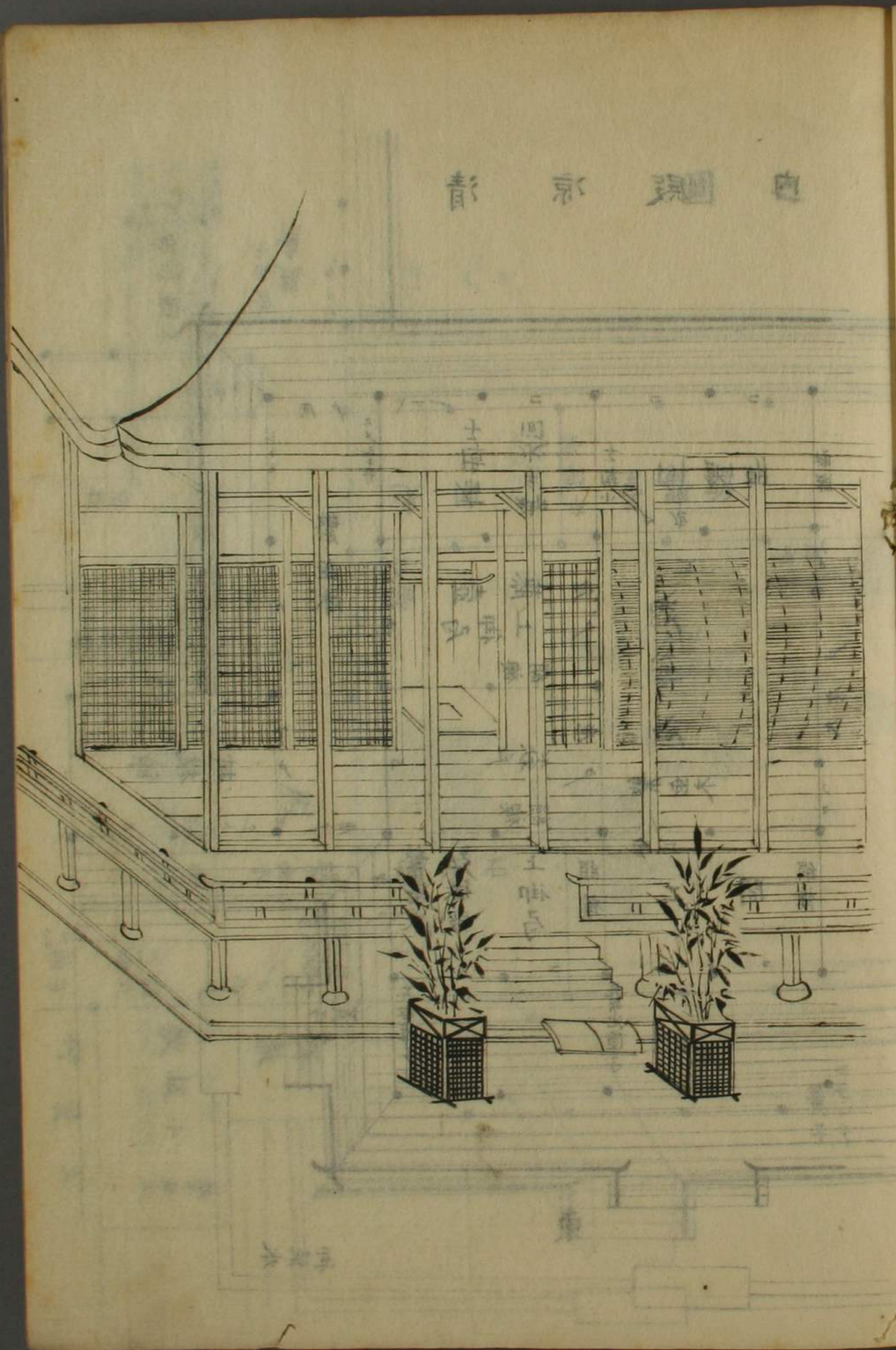
墨画

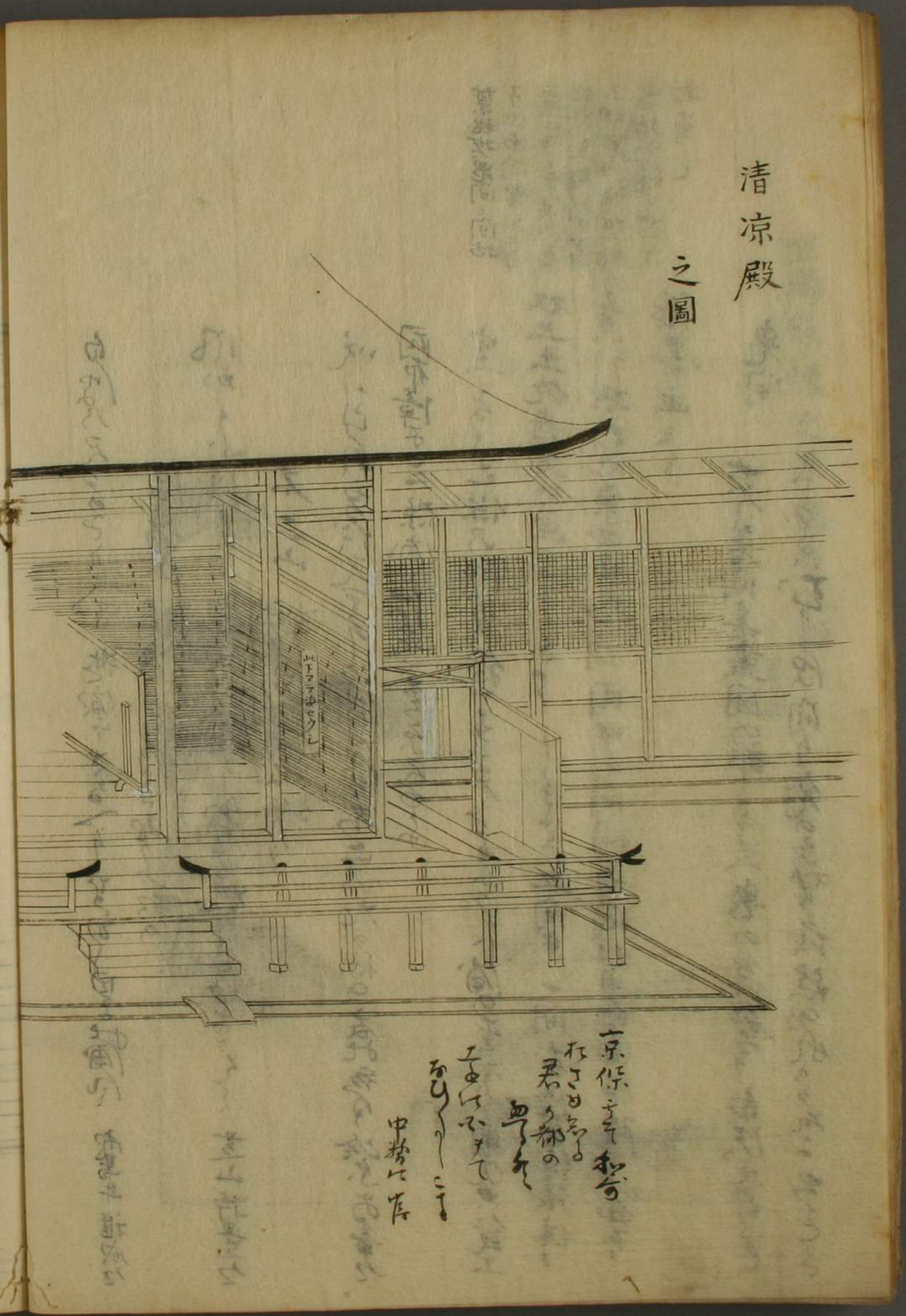
土佐將監筆

禁秘抄鬼間に南北
子也南間常不上有
霞帳巻之其内南
北行三五御厨子置
王卯鬼日俗揚形
者北小障子際爰
拄有之

白地乃天ゐるものとりくへて 松原にさるへくなる物ゝ田ゐる植風
字鳴原 ゆ廣くゐるはるき都ゐふ松の
風かよふはもゝ〳〵しく 松陰に初ゐ流れ清きうゝ〳〵 芝山打豊々
不二山 中ゐ流しかゝるなの
以しらぬ古代光ゐ流し紀を不二乃たの仏の夜ゐ冷ゐ音々
同布障子二保南間逆くゐ原ゐ東ゐ
空ものゐ三保乃仲ゐの鈴なるゐ乃ゐあふゐ小簡の出ゐ 同洗曲仁鈴工
又上土佐將監の画すり こゝ〳〵しまゐ 北間中一間布障子俗張絵
青引極彩色東西南北之間 同中之間同南間北面西南布障子北面布
張墨画ゐゐ

鬼間 六ゐ著間集書図の部ゐゐ又鬼の乃ゐ薬ゐ白沃ゐ
ゐゐる玄ゐ原間ゐ鬼のゐみゐ成張の乳ゐ乳ゐ



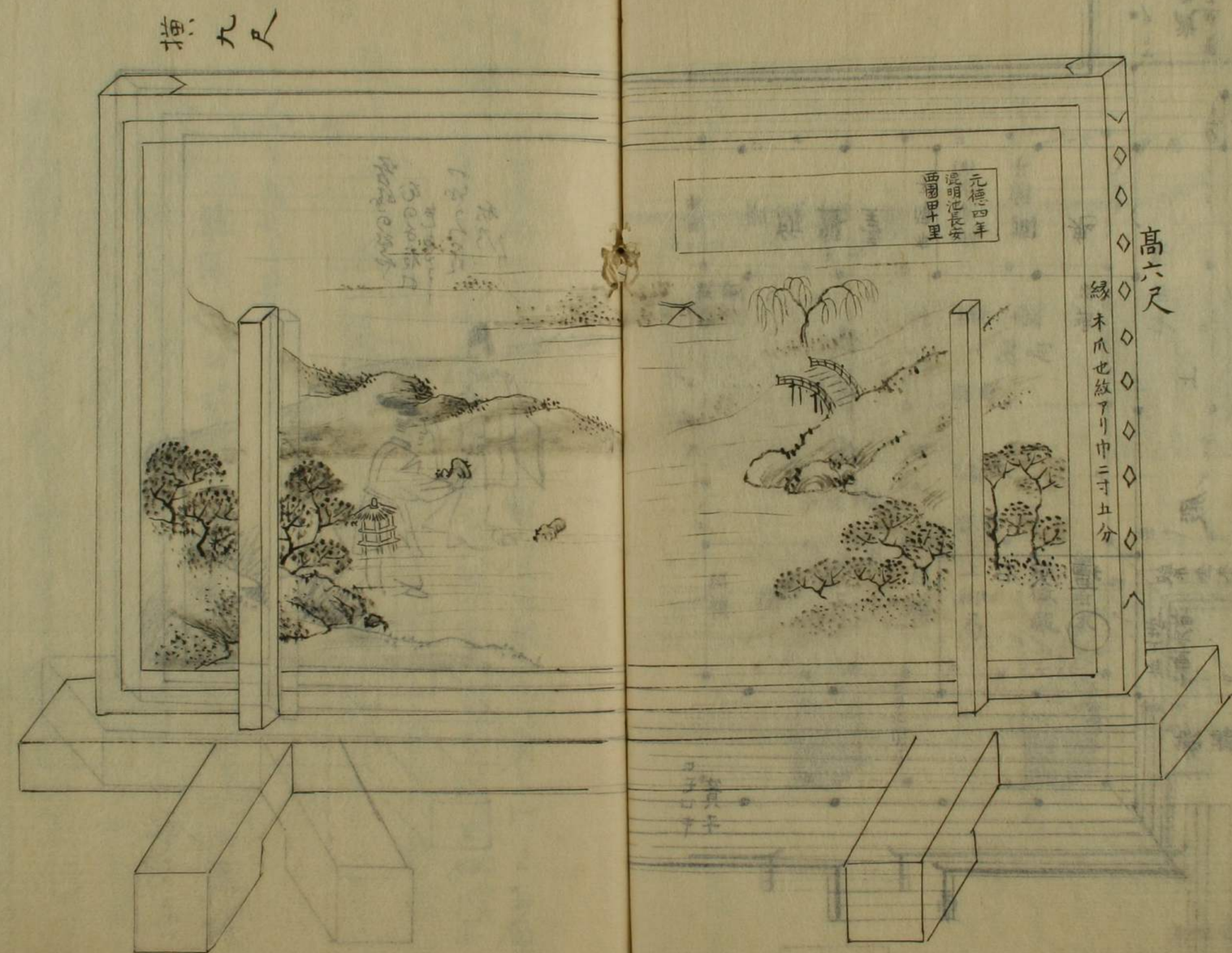


清涼殿之圖

京保元年和哥
わさものゝ君の御の
上をけいてまて
なり〳〵こゝ
中勢代作

# 清涼殿内之圖

清涼殿
昆明池御障子
表昆明池圖画
極彩色
裏鷹匠画

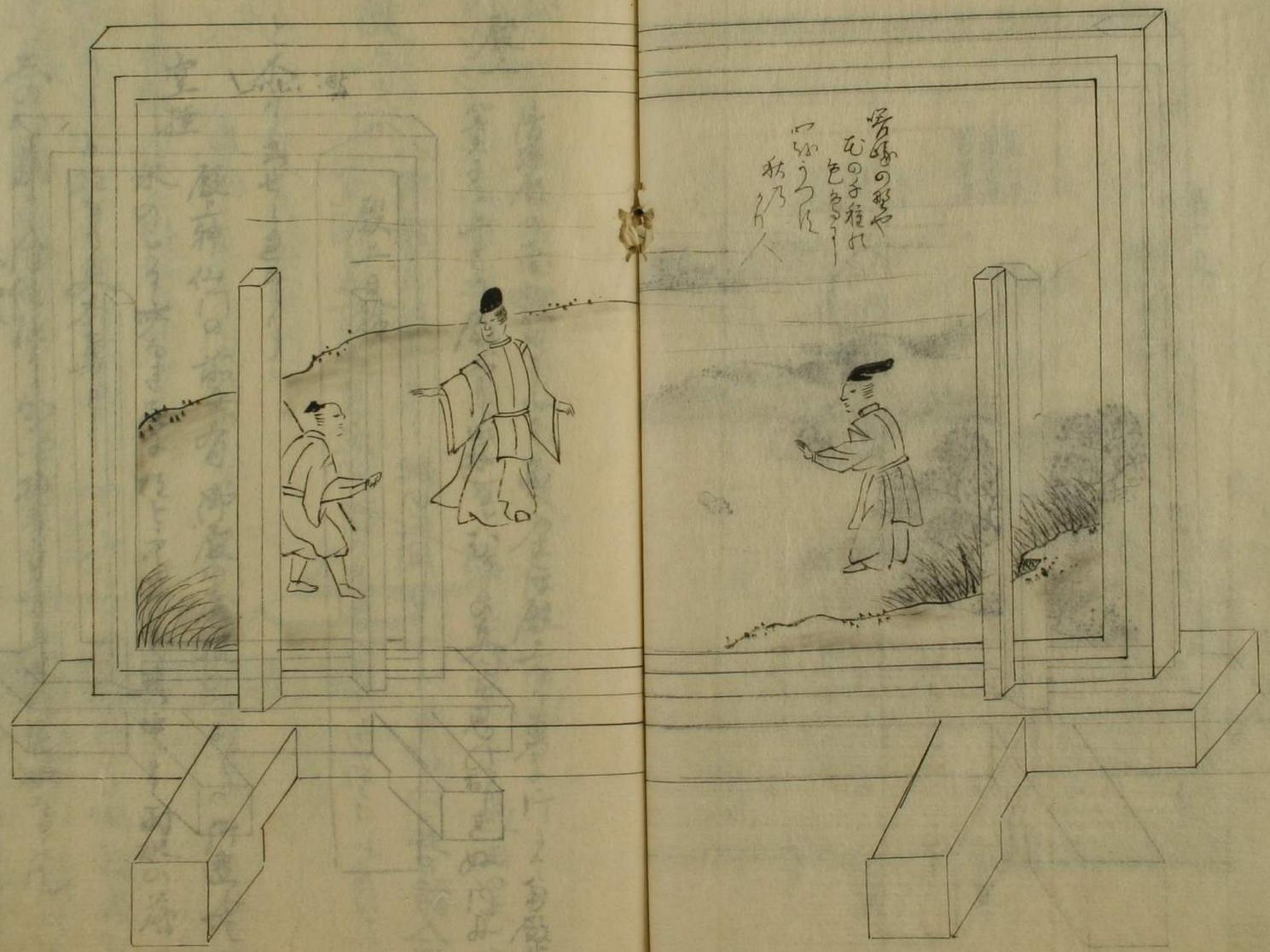



柱臺尺黒漆
縁唐錦
金物金銅

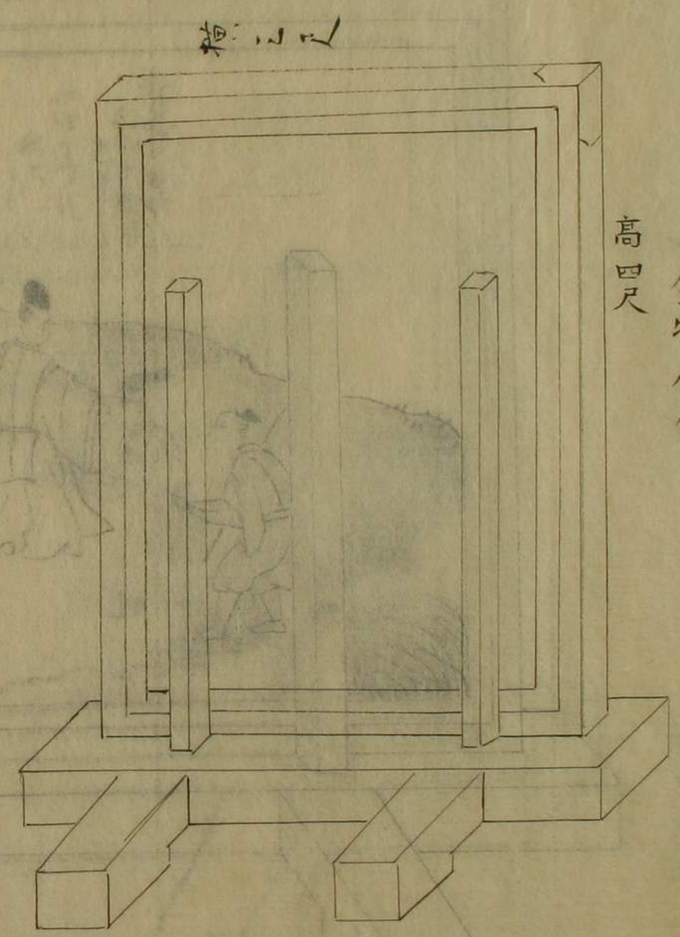
昆明池長安西南在
漢武帝作之

右昆明池之裏鷹匠之圖

極彩色



清涼殿小障子十分一之圖




絹張表　猫　裏竹雀
縁　軟錦　如昆明池
金物金銅　縁臺足等黒漆

清涼殿の南のそうしまの西の屋は殿上の東より行き南殿北の簀子上まより殿上の西の妻まで思ひわたしぬ内は

殿上

殿上日給

と不り申せ共

空柱　殿上神仙門の前に有　御殿の廊限のつまの行廊に西

水のとゝ所なき所なり　柱と元すして其中より雨水の落る

うしろ柱なり　其本集り

其のむかふ柱侍はかる柱　著南集る渡殿と称ずるなり

虎間

渡廊　殿上ゟ　障子戸ゟ　又同し渡殿の中ゟ北に馬形の障子

伊勢ゟ　安ゟ渡殿　則朝餉間の西ゟ南ゟ東に

なを馬のついたる障子あり　又春昭殿とよび御殿

**直廬**　御殿の西の方にあり　裏巖記曰在中宮　皇太子閑白

ナトノ御祈祷ノ時ニ此ニ入ル　直廬ニ諸官舎ニ官人居所ヲ云

直廬ハ俗ニ云部屋如ノトス　又或言ハ閑白ヲ内裏ニ召ル時

所ヲ云ヘシ　直ハ宿直ノ心　又皇ノ御殿間ヲ御講廬ト申

ト　寿命院殿の作りなり

前

虎間　直廬ノ並ヘリ　天明の火前ハ内の襖に虎の画ありし　今は白

障子に画ク

**諸太夫間**　虎間ノ並ヘテ直廬虎間諸太夫間ハ四面ヲ七月十三日

御燈祭献上の花ハ此の三間ヨリ出る　四ノ日諸人伴

見を乗ル通用と在の上下おりて　群集花ヲ乞し　遠国の者ハ此

庭の砂を取て過ル　やんとゝきてゝなり

**神嘉殿**　右三ヶ所の前ニ有　此御殿を新嘗祭

行なる　毎年作る　新穀を新嘗祭ト申

ことなり　稲を神へ奉らせ給ふ

代のそし　先ハ大嘗会　次ハ

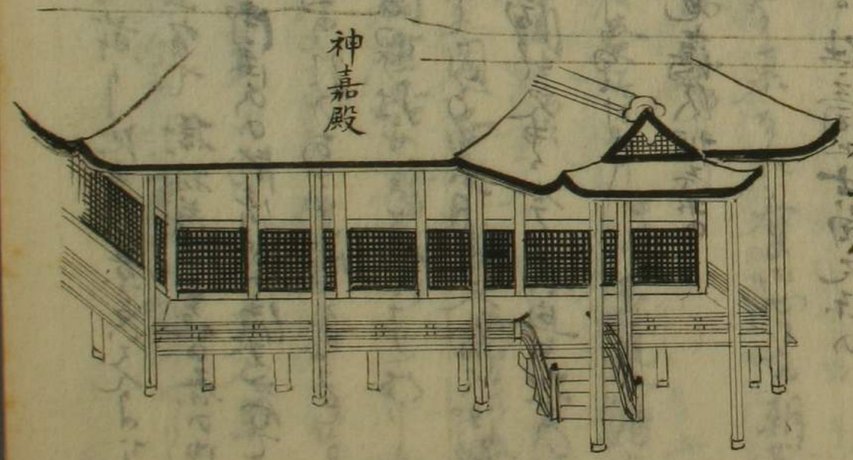
ことのと　新嘗祭なり　用明天皇

四月ニ　始ル　拾芥抄曰

神嘉殿中　紫宸殿ト云

詹中央ニ神　今会ト云　ヒ　有

ヒ




神嘉殿之図

世御所往古ヨリノミカ名月ヘス

小御所　清涼殿の東北の方前の池あり　景色いとよし　池の
　　拾五坪有　後の築山あり　樹木茂り　花の香の山路月秋の
　　夜　御庭の前清流　流を蓄て　垂る滝　此
　　此山の麓に舟頂の鶴　羽共外鳴の孔のあり　池に入る　文化六年
　　の秋　南殿の所村の屋の色　夜の四方　はるきさ　仕　仕　仕
　　仕　て　夜の方　須　此　麓　月の　（宿て御池に　橋　を
　　月の　ひ　こ　て　行　流　て　今　其　の　花　初　月
　　奇　と　ま　と　は　し　う　し

上段　内裏の図　雪引　鶴　鶴　探　家の
　　筆　な

中段　左近の桜　詩　附の図　仕　高　上　古　田　元　所の
　　筆　な

下段　九月廿五日　座　五　節　朔　平　門　奉　仕　高　上　勝　山　琢　服の
　　画　な

廂　東面　朝賀を図せり　極　形　美　東　れ　春の心　朝　賀　殿　の
　　の　と　を　画　所　の　廂　の　な

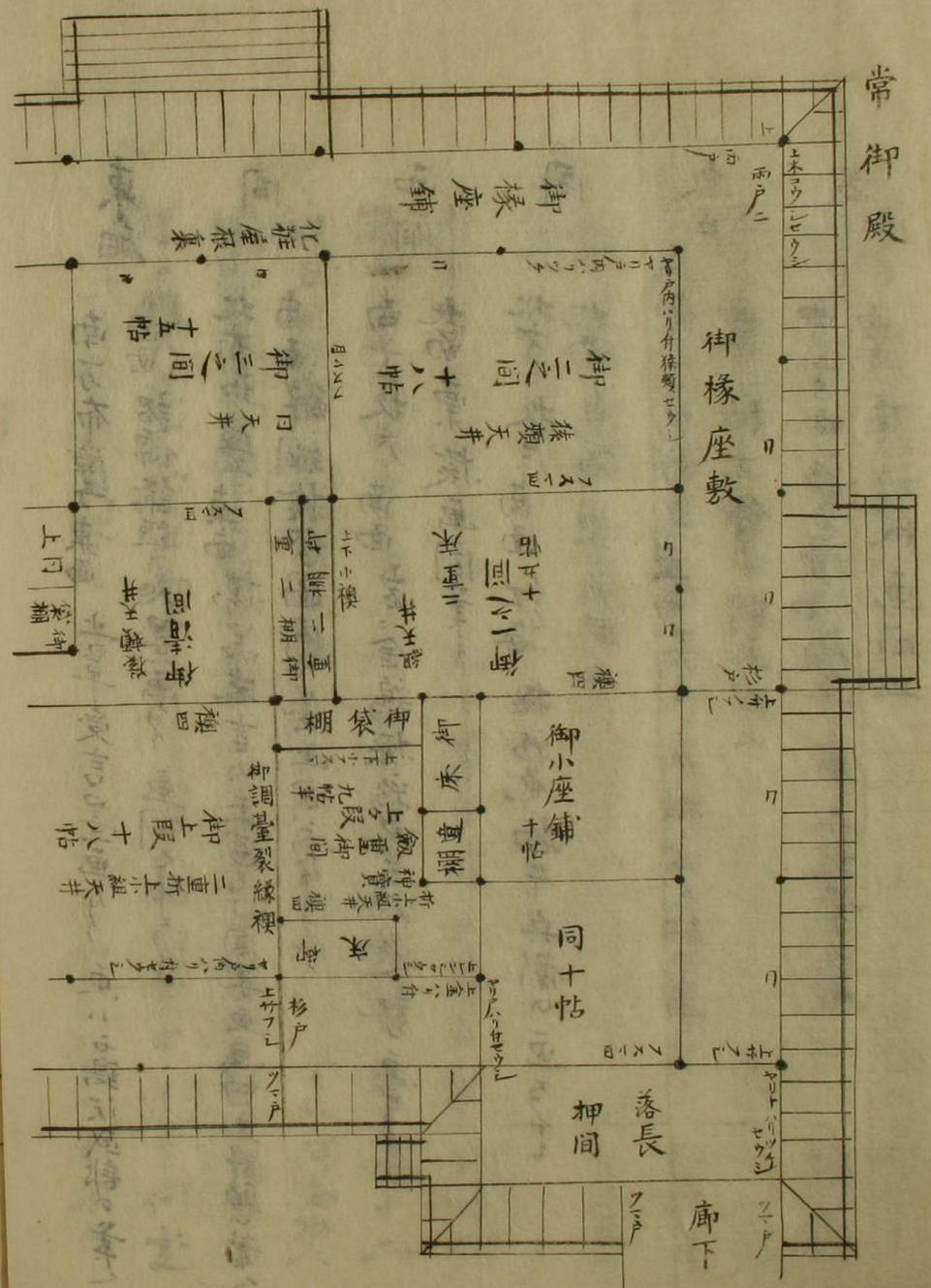
年中行事　合　元　の　加　奏　な　中　東　元　暦　年　中　な
　　な　な　な　裏　戒　御　仕　高　と　な

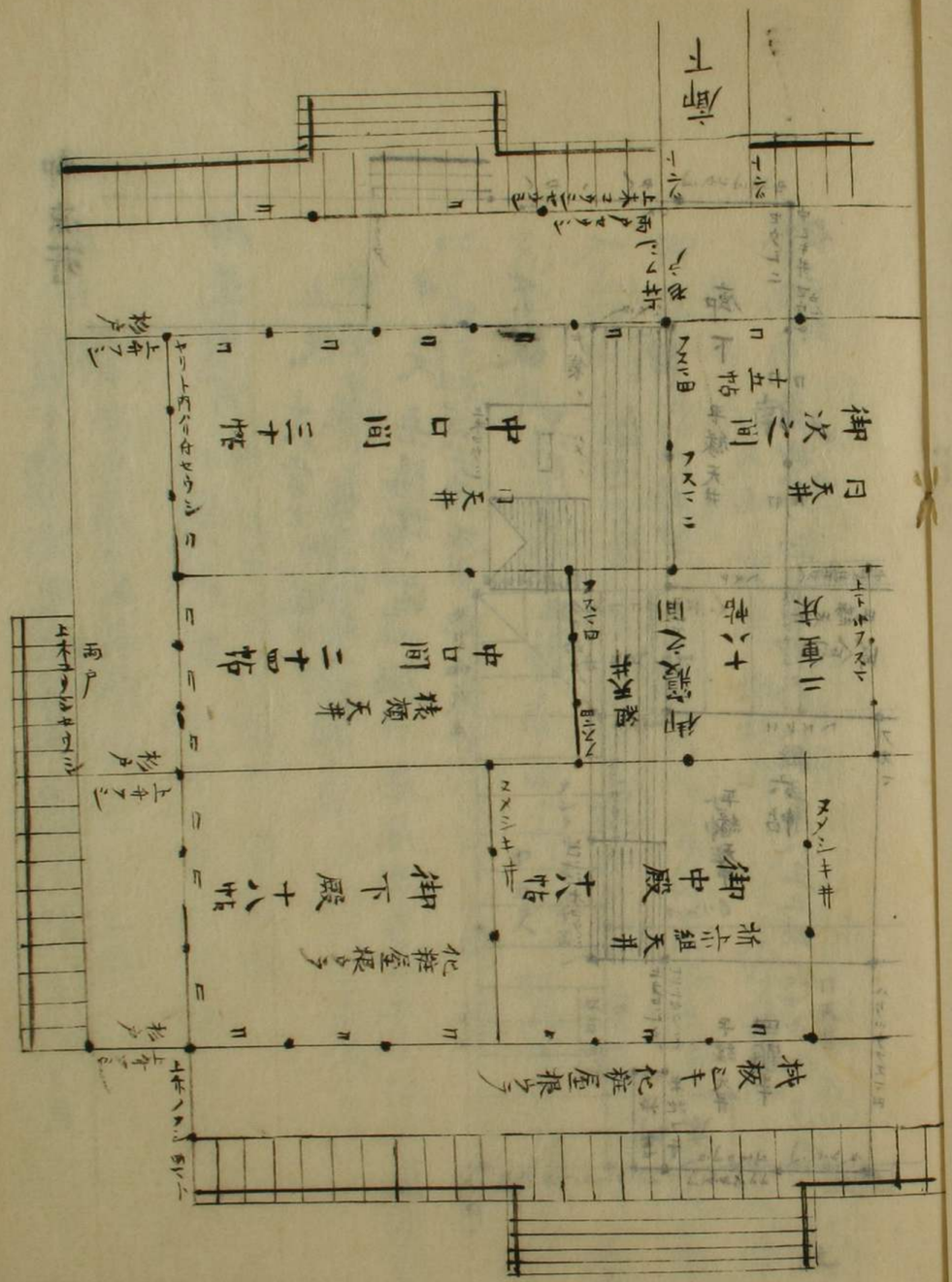
廂　西面　弘　年　殿　を　な　園　金　五　の　筆　な

同　書　二　月　十　六　の　弘　川　の　る　て　待　や　大　い　む　し　の　る　い
　　ち　と　の　馬　三　十　又　六　年　の　の　四　里　と　あ　ち　の　る　十　五　又　年　と　な　る　と
廂　西面　賀　茂　の　図　仕　高　上　西　る　れ　い　麦　の　山　心　な　り　し　柳　地　定
　　三　の　画　な

同書に欽明天皇の代に紀氏しのり南の方に迫合の風動むと
神山のあふひと名てたの世に猿楽猿楽に　頃河
錦華庵集に
紀ありあるあ神と天とのあるるるに霊ゐるれ　むさ光
廊　北面　追儺を画せり　仕立同上北方れ火の心てせん　特殊正求の
西方
祈唐書三千百官志に日大小署令官李冬春儺堂晴大
儺天子六隊大子二隊方相氏右執戈左執楯而導之唱十二
神名以逐悪鬼儺者出殊雄鶏于宮門城門上方又河海抄
紅葉賀夜に儺を追女鬼ゆ〜ひとるる
ま〜儺乃字一字を鬼ゆ〜えるよむる始自葉中迄二何変

東廊　南方布障子東面　止早受言墨画なり　画ハ石鶏沃武部の筆
西面　詔御講筵の処墨画なり　画同筆なり
同　北方布障子東面　掃部寮来言の画図なり　同墨画島田主計頭の筆
南面　解絃の図　同く墨画同画なり
西廊　南方扱戸　南面　山岳金鶏　極彩色　三谷逸記の画なり
北面　栗撥画　同筆
同　北方　扱戸　南面　紅梅　極彩色　狩井兵衛の画なり
北面　白梅　同上　画同上
扱戸　西ノ方中彩色　東面　王質　斧推柴之助の画
西面　伯牙鐘子　朝画同上
西ノ方中彩色東面　初平　井上大学の画
西面　昇利叙　画同上


常御殿
御縁座敷
御縁座敷
御三間
十八帖
御三間
十五帖
御小座敷
十帖
同十帖
落長
押間
廊下


御次間
十五帖
中口間
三十帖
御中殿
十八帖
御下殿
十八帖
中口間
三十四帖
御廊下

# 御涼所

同　北殿舍廊下南方松に鷺薄彩色村上東例ノ画
北面要竹　同上画　同上

御学問所　小広縁ノ北に有

上段　大学士ノ図より画ハ鷄に採泉ノ筆

中段　蛮陽攜ノ図より画ハ原在中画

下段　呉月渓ノ画より

間　海辺ノ雁
庆雅楽之助画

御三間　常御殿ノ西に有御仏壇ノ帯ハ土佐画ハ御設有

常御殿　御学問所ノ北に有　土佐常ノ筆御殿ノ西に有

東面　御庭ハ樹林ノ中に作る松に竹を作る

御清水ノ清き流れ小川を作りて南北に流れ小御所の池に

入る水ハ海浦ハ作り攜ハ橋ハ作り攜ハ橋ハ木せいの板橋ハ

花菖蒲道ハ有南面ノ仲庭ハ桔梗ハ多く植る東

北ノ角に桔梗ハ北面に菊紫苑ハ有

御懸畳帖子　西面　画　桐竹鳳凰雲取ハ子ハ引極彩色也

将軍御座殿助ノ画

上段　光仕賢國治ノ図也　仕立上ノ同

画工同上

大島武清防敵ノ図　仕立上同

中段　鶴澤式部ノ画也

下段　高宗諸長衛ノ圖也　仕立上同

狩野藏之進ノ画也

四季花鳥、号　俵屋御床張付　錦花鳥也

鈴鹿御間　画工鶴沃探玄宗

上四牧春夏花鳥下四牧秋冬花鳥砂子泥引

御小襖　也

御寝間　真四季山水雲取砂子泥引中彩色　俵屋南方御小襖

上四牧下四牧画代集巻頭紀貫之ノ砂子泥引也

北方御小襖上四牧下四牧画六歌仙和歌ノ心伐等ヲ　石田遊汀筆

壹御間　獨有宮於人倫鶯物候新雲霞出海曙梅柳

波江春　叙氣催萌鳥晴光轉緑　色園歌古

調帰恩欲浴中　秋ノ詩ノ心伐図ヲ　画ハ圓山主水ノ筆也

御床張付　御袋棚張付　画松竹　俵屋群青引極彩色

二ノ御間　林唐夜伝舟宗響蕭飛々萬影答　月月千聲古

為秋家華空漠晩卿思不堪　愁面小浮雲外伊川

何所流　右之心ヲ圖セリ　画ハ土島田主計頭ノ筆

四季海辺薄彩色ニ而画ハ

三ノ御間　圓山右近ノ筆

住吉ノ景中彩色ニ而画工

清御間　吉田大炊ノ筆

御小襖、上三牧春暁雲霞　画工古同
下二牧秋のうらぶ

四季草花中彩色松山ハ春ノ画

次之御間

申口　廿四帖間　扨ヶ花薄彩色江村春甫ノ画

三拾帖ノ間　外ニ蒙薄彩色恒枝高麗ノ画也

御黒戸
御湯殿


御湯殿
十帖
御上段
猿頬天井
板間
平縁天井
廊下
猿頬天井
御物置
十六帖


御物置
十六帖
廊下
猿頬天井
五帖
猿頬天井
御黒戸
六帖
二帖
組天井
板敷
殿
赤黒
鏡天井

御小座敷　上御間梁荒壁　御床張付　画同上　御遠棚張付
画同　御小襖　上四枚　小鳥　下四枚　鵠　緒洗砂子流引　竜園山

立水ノ筆

下御間　庚搗月墨画十り画工
庄推楽之助

落長押間　毎中村平蔵ノ画

扨戸　東御撮座敷南方南面　欵平貴住北面　扱頭還城楽住人
同　草庵の筆
同北方　南面車仏　北面　孫東佐野乾之画
尚廊東ノ方　西海原　瑠璃鳥　東　芙蓉翡翠　筆　極彩色
画ハ田中訥言筆

同　東　載安道　西　帰去来ノ解
真源次郎　画

同　北御撮座敷　東　竹鶴　西　紅葉鹿　中　彩色
谷川元庫　画

同　西御撮座敷　南北之方　南東破北　上谷中　彩色
笹川廷泉　画

同　中仕切　南　押山鵜　北　芍薬白鷗　中　彩色
将野内通　画

同　南方　南　華山鳥　北　桃林牛　中　彩色
山本右近　画

御涼所　常御殿ノ北ノ方　御廊下ヲ通テ御涼所ヲ通リ又御涼所ノ
北ニ御撮廊下有　其下小川流レテ曲水ノ如シ

御涼所浄行間半
拝行間五人畳敷
袋間二人畳敷
棚一間半　西御床
一人畳半　西御撮座間半

泰内殿　二筋廊下


廊下
文房部屋十帖
下廊下三十六帖
御成廊下三十六帖
御縁
御縁天井
御成廊下天井


下段十五帖
中段十二帖
上段十二帖
御縁
御縁天井
御縁ザシキ
杉戸
鋪
杉戸
石
間

上御間　御床御違棚御附書院　鶴巴張付小壁　春秋山里云画ヲ立
沈引画　春夏花鳥　長伏芦雁ノ画

次御間　撞冬花鳥小壁　秋冬山里絵付立沈引
駒井幸助ノ画

御床張付春夏花草蒔懸

裏御間　原在中画

次御間　秋冬草花小壁　猪鹿
秀雪亭画

取合御間　牛小壁　萱葉原二郎

御湯殿　御涼所ノ北東ニ有

上段　桐中彩色狩野正栄ノ画

御星戸　春暖扶文ヲ以テ　清涼殿ノ北階ヨリ戸ノ西ニ有
由拾数ヲ有ト云　今御湯殿ノ北ニ有

上段　蓮中彩色鶴辻井狩子画
本村ヲ陵ノ筆ナリ

奏内殿　常御殿ノ北奏者所ノ南ニ有　十寿ヲ歳小夜ヲ内　拵筆
及元二月二日鶴ヲ以御座ヲ作ル文　仙洞御所

御章の第　此所ヲ以テ乃チ年始宮方ヲ以テ元旦ヲ同

上段　琴ヲ碁書画　古田元陳ノ筆

中段　高山四皓　勝山琢眠ノ画

下段　九老ノ圖　狩野修理亮画

板戸　西御掾座鋪北方西　雪玉　北張鶴中彩色
　　笹井源大郎画

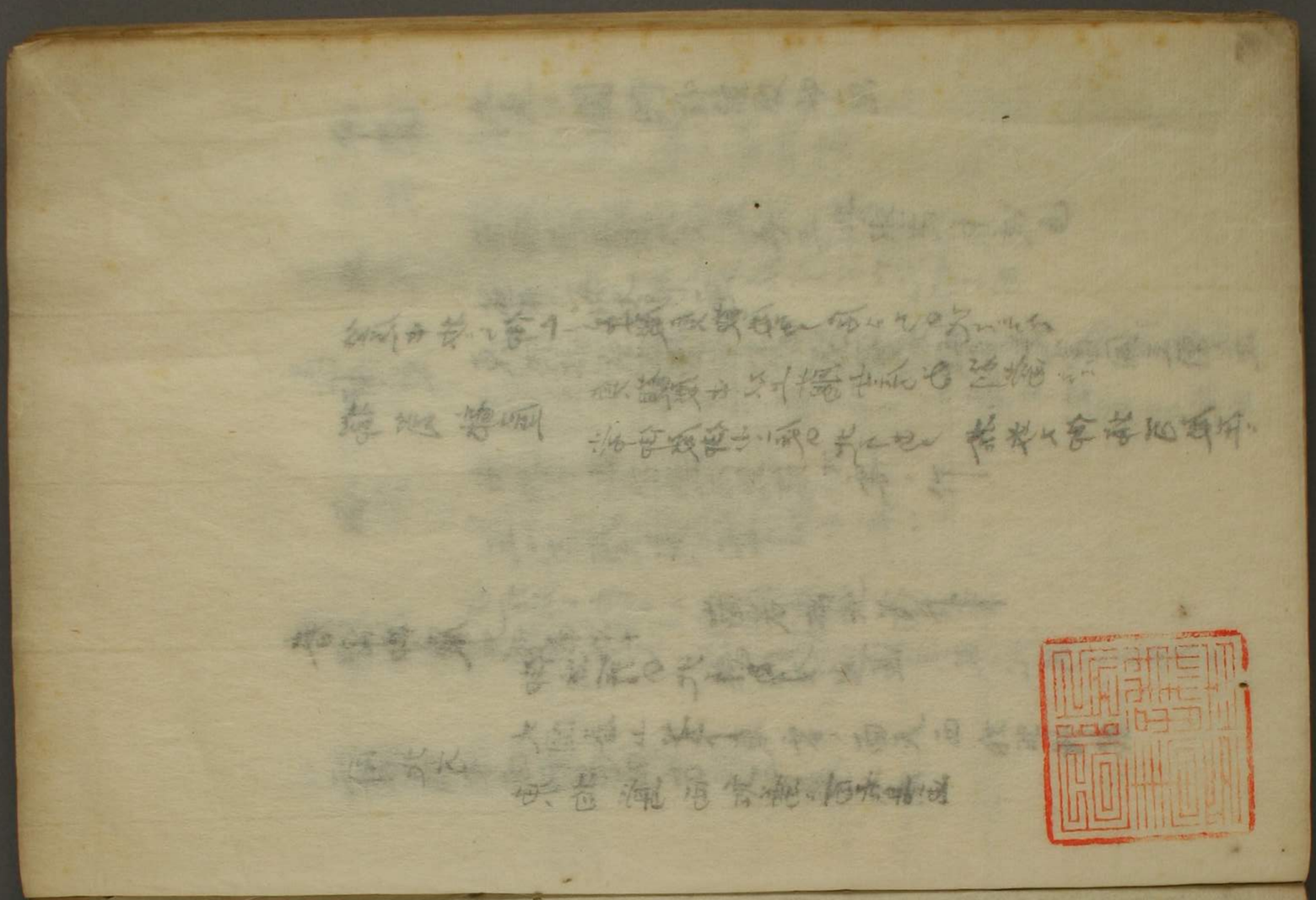
同　東御掾座敷南之方西　花籠北　梅竹　呼富岡主税画

同　同北方南　常盤木猿猴　北　李ノ作
　　画ハ吉成元清筆

岩屋廊下北行南板戸　南若松北竹
　　鵜飼大道画

二筋廊下西行南南方　東雪ノ南天西　秋胡卦猪
　　大村豊永画

同北方　東柏鶯　西行兼　百舌鳥画
　　大岡春山筆

春宮御殿　御涼所の北方にあり

御菊部屋　常御殿御小座の北方にあり　拾数ヶ御掾有殿在
　　貞観殿中ハ上臈女房の別當
　　屋中ハ御ゝ〳〵御殿貞観殿ヲ居さるの北とそ